

2012 年度

東京学芸大学 留学生センター

年 報

はじめに

グローバル化の進展は、強大な政治・経済力やメディアを背景とした画一的・均質的価値観の受容をおしすすめた一方で、地域や社会・集団の固有性や権利、差異化を主張する動きを活発化させた。近年の日本をとりまく国際関係も、領土・国境問題に象徴されるように、各国の利害・主張が対立し、軍事的緊張を強いられることも少なくない。とくに日本とアジア、とりわけ近隣の中国・韓国とは長く深い交流の歴史を有するにもかかわらず、多くの難問や障壁をかかえてきた。中国との貿易や経済交流は急速に拡大する一方で、領土問題や歴史認識の違いにもとづく中国の反日感情は根強い。韓国とは、2002年サッカー・ワールドカップ共同開催や両国間の文化交流の活発化など関係改善の動きはみられるが、竹島・靖国問題ならびに従軍慰安婦問題等をめぐって深い溝が依然として存在する。一方、ASEAN 諸国との関係は、ODA や貿易拡大などの経済分野にとどまらず、近年は研究交流や教育支援などにおける人的交流が強化されつつある。

こうした現状に鑑みれば、将来を担う若者たちに、異なる価値観や行動規範・文化を有する多元的世界についての理解を深めさせることは重要な教育課題である。自国中心主義に陥らず、相対的・客観的な見方・考え方をもちつつ、相互理解にむけた寛容性と主体的態度を育てることが一層求められる。同時に、生命や人権、平和など、相対的価値観を超えた理念や公共性の観点から世界や社会のあり方について議論することもまた必要であろう。

ところで2012年度、学芸大には326名の留学生が在籍し（2012年10月1日時点）、国籍別には中国（香港含む）が182名で57%、韓国が61名で19%と多くを占めるが、出身国・地域は35にも及ぶ。留学生に代表される本学の豊かな人材をいかに教育・研究そして本学の国際化につなげていけるかは、留学生教育に携わる本センターはもとより、全学的に取り組むべき重要課題である。本センターではこれまでに、留学生と日本人学生との相互理解・協働を促すべく、CA学芸フロンティア科目や日本語日本文化研修生プログラムならびに短期留学プログラム（ISEP）での共同授業やプロジェクト、「国際交流カフェ」、交流合宿などのさまざまな取り組みを行い、成果を蓄積しつつある。しかし留学生の中には、日本人学生とのコミュニケーションや共修の機会を今以上に希望するとの意見も少なくない。

異なる歴史・文化的背景をもつ学生同士そして教職員がともに学び、それぞれの国や社会・文化・人びとに対する認識を深め、問題解決に向けた議論を継続していくことは、大学という場でこそ可能な実践である。本センターもこれまでの経験と蓄積をいかし、グローバル人材の養成にむけたさらなる検討をすすめていきたい。

最後に、常日頃、留学生の教育・指導や修学・生活サポートなどさまざまな形でご協力くださっている教職員、学生、地域の皆様にこの場を借りて心より感謝申しあげたい。今後とも留学生センターの活動に一層のご協力・ご支援をいただければ大変幸いである。

東京学芸大学留学生センター長

椿 真智子

目 次

はじめに

1. 全学留学生対象の事業	1
1.1 日本語科目	
1.2 日本理解科目	
1.3 見学・交流事業	
1.4 研究支援・生活支援事業	
2. 国費研究留学生および教員研修留学生対象の事業	5
2.1 日本語集中コースおよび一般日本語科目の開講	
2.2 教員研修プログラム	
3. 日本語日本文化研修留学プログラム留学生対象の事業	7
4. 短期留学プログラム留学生対象の事業	10
5. その他の活動	12
6. 教員の教育・研究活動	13
資料1 日本語科目一覧	21
資料2 日本理解科目一覧	34
資料3 短期留学プログラム科目一覧	39
資料4 主な行事の写真	47
参考資料 本学に在籍する留学生数一覧	48

1. 全学留学生対象の事業

1.1 日本語科目

「日本語 1」（上級）から「日本語 5」（初級）までの 5 レベルに分けられ、以下のように構成されている。

表 1 日本語クラスの構成

	授業形態	必修・選択の別	クラスの決定方法
日本語 1	一般 1 科目当り 週 2 時間	選択	全学日本語プレースメントテストならびに Can-do statements 調査による
日本語 2			
日本語 3			
日本語 4	集中 週 20 時間 [日本語 4]	国費研究留学生・教員研修留学生で日本語能力の低い者は必修	学習歴調査による
日本語 5	週 28 時間 [日本語 5]		

2012 年度は、合計 113 枠（春学期 57、秋学期 56）を開講した。
プレースメントテスト受験者は春学期 126 名、秋学期 127 名であった。

1.1.1 日本語 1～3

春学期 33 枠、秋学期 32 枠を開講した。「*」印のところにはこれ以外に日本語教育教室で開設している正規の日本語科目がある。

表 2 日本語科目の種類・レベル・数（春学期）

	総合	応用	作文	講読	会話	漢字	聴解	文法	発音	特別演習	プロジェクト
日本語 1	1	-	1*	2	1*	1	1	2	1	1*	1
日本語 2	1	-	2	2	2	1	1	2		2	
日本語 3	1	1	1	1	2	1	1	-	-	-	-

表 3 日本語科目の種類・レベル・数（秋学期）

	総合	応用	作文	講読	会話	漢字	聴解	文法	発音	特別演習	プロジェクト
日本語 1	1	-	1*	2	1*	1	1	2	1	1*	1
日本語 2	1	-	2	2	2	1	1	2		2	
日本語 3	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-

1.1.2 日本語 4

春学期・秋学期ともにそれぞれ 10 枠を開講した。

春学期

受講者数： 9（教員研修留学生 8、研究留学生 1）

科目と時間： 「総合」10 時間/週、「応用」6 時間/週、「漢字」4 時間/週

秋学期

受講者数： 7（教員研修留学生 1、研究留学生 1、ISEP 留学生 5）

科目と時間： 「総合」10 時間/週、「応用」6 時間/週、「漢字」4 時間/週

1.1.3 日本語5

春学期・秋学期ともにそれぞれ14枠を開講した。

春学期

受講者数： 4（研究留学生4）

科目と時間： 「総合」16時間/週、「文字」4時間/週、「会話」4時間/週、
「聞き取り」2時間/週、「作文」2時間/週

秋学期

受講者数： 8（教員研修留学生7、ISEP留学生1）

科目と時間： 「総合」16時間/週、「文字」4時間/週、「会話」4時間/週、
「聞き取り」2時間/週、「作文」2時間/週

1.1.4 留学生による授業評価

学部が実施している正規科目用の「授業評価アンケート調査」とは別に独自に実施しているものである。質問項目は日本語、英語、中国語、韓国語の4言語で用意してある。科目毎の結果（平均値、標準偏差、自由記述の内容）は各担当教員に報告している。

1.2 日本理解科目（「日本の文化と社会」および「日本研究科目」）

2012年度日本理解科目は、「日本の文化と社会」（学部開設）と「日本研究科目」（留学生センター開講）として、以下のような科目を行った。（シラバスは資料2参照）

(1) 日本の文化と社会

春学期

日本の文化と社会 A（総合教育科学系）（担当：戸田孝子）

日本の文化と社会 C（人文社会科学系）（担当：佐藤正光）

日本の文化と社会 E（自然科学系）（担当：二宮修治）

日本の文化と社会 G（芸術・スポーツ科学系）（担当：遠藤 徹）

秋学期

日本の文化と社会 B（総合教育科学系）（担当：神埜正子、石川尚子）

日本の文化と社会 D（人文社会科学系）（担当：古田悦造）

日本の文化と社会 F（自然科学系）（担当：日高 慎）

日本の文化と社会 H（芸術・スポーツ科学系）（担当：太田朋宏）

(2) 日本研究科目

春学期

日本研究 A（社会）（担当：高崎 恵）

日本研究演習 B（人文）（担当：有澤知乃）

日本研究 C（教育）（担当：遠座知恵）

日本研究演習 D（環境教育）（担当：松川誠一）

秋学期

日本研究演習 A（社会）（担当：加藤 拓）

日本研究 B（人文）（担当：有澤知乃）

日本研究演習 C（比較研究）（担当：戸田孝子）

1.3 見学・交流事業

1.3.1 講演会等

日本理解に関する講演会を開催した（5月16日：Gavin Whitelaw, At Your Konbini: Small Stores, Globalization, and Livelihood in Contemporary Japan、11月28日：Estuko Kato, Tea Power: Bodies, Myths and Japanese Women Tea Ceremony Practitioners in Modern Times）。

日本の伝統芸能への理解を深めるため、日本舞踊ワークショップを開催した(5月30日)。

1.3.2 国際交流カフェ

日本人学生と留学生との交流を図るため、学芸カフェテリアのランチ講座として「国際交流カフェ」を毎週金曜昼休みに C103 で開催した。春学期は、国の紹介（韓国、スウェーデン、台湾、ドイツ、タイ、ロシア）と交流活動（テーマ討論、ゲームなど）を一週ごとに行った。秋学期は、交流活動を中心に、国の紹介（インド）、紅葉狩り、クリスマスパーティなどの課外企画や餅パーティ、カルタ大会などを実施した。参加者は各回 10～20 人程度で、春学期は日本人の方が多く、留学生の参加が少ない傾向にあったが、秋学期は留学生もスタッフにはいり、留学生の参加者が増えた。毎回スタッフ会議を開くことによりリーダーの育成もはかっている。

1.3.3 国際交流合宿

日時：2012年8月1日（水）～2日（木）1泊2日

場所：筑波大学山中共同研修所（山梨県山中湖村平野）

参加者：計44人。日本人学生11人、留学生31人、引率教員2人

（中国16、台湾1、タイ4、韓国3、フィリピン2、クロアチア2、ルーマニア1、マレーシア1、トンガ1）

4回目となる今回の合宿は大変充実した内容となった。1日目は、ハリモミ純林観察ツアー、花の都公園散策、報湖祭花火大会、夜の交流会でのゲームなどをおして参加者同士の交流をはかった。2日目の班発表会では寸劇、音楽・ダンスなどが披露され、折り紙や切り紙体験も実施した。今回は日本人学生の数が若干少なく、また日本語が苦手な留学生も含めて班を構成したが、相互コミュニケーションは十分はかれたと考えられる。なお平日であったため渋滞がなく、時間のロスもなかった。今後も引き続き国際交流の場として合宿を充実させていく予定である（詳細は報告集参照）。

1.3.4 学校訪問

附属小学校、都立高校を訪問し、児童・生徒との交流活動をおこなった（11月7日・12月12日・1月30日：附属小金井小学校、12月7日：附属竹早小学校、11月13日・12月4日：附属大泉小学校、2月12日：都立淵江高校）。

1.3.5 大相撲観戦

「日本大相撲トーナメント第37回大会」の観戦を行った（2月10日、参加人数30名）。

1.4 研究支援・生活支援事業

生活支援事業の一環として新入学生を対象に自転車安全教室を開催した（10月24日）。

生活支援部門に所属する専任教員不在の状況が続いているため、生活支援事業の一部をすべての教員が分担した。

2. 国費研究留学生および教員研修留学生（教研生）対象の事業

2.1 日本語集中コースおよび一般日本語科目の開講

国費研究留学生および教員研修留学生に対して日本語教育を行なった。

なお、2012年度新規渡日の国費研究留学生は春学期5名・秋学期4名、2012年度新規渡日の教員研修留学生は9名であった。

2.2 教員研修プログラム

2012年度は、2011年秋に来日の研修生（以下「2011教研生」）と2012年秋に来日の研修生（以下「2012教研生」）に対する研修を行った。

[2011教研生]

2013年2月に研究成果報告会を開催した。

表4 2011教員研修留学生 研究発表会 発表題目

	氏名	国籍	発表題目	指導教員
1	アンザレス フィルソン レイ ゴー アンサン (Anzures, Wilson Ray Go Ang Sam)	フィリピン	Adapting Mondaikaiketsu for the Improvement of Student's Critical Thinking	中村 光一 (数学科教育学)
2	ジャン ソヨン (Jang, So Young)	韓国	充実した学校図書館運営のため - 図書館教育のための software と hardware -	山口 源治郎 (生涯教育学)
3	バサリッチ カルメン (Karmen Basaric)	クロアチア	Women of Tokugawa period (1603 - 1868)	川手 圭一 (歴史学)
4	カン ミヘ (Kang, Mi Hye)	韓国	韓日道徳教育課程と教科書上の環境教育内容の比較研究	原子 栄一郎 (環境教育研究センター)
5	コミロフ アリシェル アハタモウィチ (Komilov, Alisher Ahtamovich)	ウズベキ スタン	Comparative Study of Educational Administration of Japan and Uzbekistan	佐々木 幸寿 (学校教育学)
6	チリタ ラウラ ユリアーナ (Laura Chirita)	ルーマニア	A Comparison between the Japanese and the Romanian Systems of Professional Education and Training at Pre-university Level	渋谷 英章 (学校教育学)
7	イ ユンジョン (Lee, Yoon Jeong)	韓国	スクールカウンセラー制度の韓日比較	佐野 秀樹 (臨床心理学)
8	フィノウ ルテ (Lute Finau)	トンガ	Implications of moral education in Japanese elementary schools	浅沼 茂 (学校教育学)
9	マ ジン (Ma Jing)	中国	Moral Education Enhanced by Internet in IT Courses	篠原 文陽児 (学校教育学)
10	ズゲラ マリヤナ (Marijana Zgela)	クロアチア	Visualization of chemical reaction based on quantum chemistry as a teaching material for thermochemistry — an ab initio study in the case of H ₂ and NaCl formation	小川 治雄 (分子化学)
11	プーンケーソン ワチラポン (Phunkeson Wachiraphong)	タイ	日本の生活と文化から学ぶ初級漢字練習書を作成する	島田 めぐみ (留学生センター)
12	バルブド プルメール エスティオコ (Barbudo Prumel Estioko)	フィリピン	Upper Secondary School in Japan: A Reflection on Educational Decisions, School Practices, and Language Issues	佐々木 幸寿 (学校教育学)
13	ユン ムンヨン (Yoon, Moon Young)	韓国	明治小説に現れた近代的自我	関谷 一郎 (日本語学・日本文学)

見学実習の活動としては、「歌舞伎鑑賞教室」に参加し、日本の伝統芸能を鑑賞した。

[2012 教研生]

8カ国9名で、そのうち7名がレベル5、1名がレベル4の日本語クラスにおいて日本語を集中的に学習した。前年度を引き継ぎ、渋谷英章教員（教育学講座教授、留学生センター長）による「共通基礎セミナー」の開講（秋学期、週1回）、研究報告発表会の開催など、同期の教員研修生が相互に刺激し合える場を提供することで、プログラム全体の充実を図った。

表5 2012 教員研修留学生

氏 名	国籍	指導教員
WAHYU FARRAH DINA	インドネシア	浅沼 茂
SONG, HEEYOUNG	韓国	藤井 斉亮
DE VERA, MARICEL MENDOZA	フィリピン	松浦 執
BAYARKHUU ALTANZUL	モンゴル	見世 千賀子
TSEGMID OTGONBAYAR	モンゴル	鎌田 正裕
MANIPOUN SITHISACK	ラオス	渋谷 英章
ROJAS LADY CAROLINA	コロンビア	篠原 文陽児
BORQUEZ CITAL, ANA TERESA	メキシコ	馬場 哲生
KABLAR ELMA	ボスニア・ヘルツェゴビナ	高山 芳樹

表6 2012 年度教員研修プログラムの主な行事

年 月	2011 教研生：2011. 10-2013. 3	2012 教研生 2012. 10-2014. 3
2012. 04	第2回オリエンテーション	
05	日本舞踊ワークショップ	
06	歌舞伎鑑賞教室（於：国立劇場）	
10	第3回オリエンテーション	来日 面接および第1回オリエンテーション 自転車安全教室
11	国際交流コーナー（小金井祭）	防災館見学
12		附属竹早小学校交流授業および懇談
2013. 01		
02	研究成果報告会・修了式	
03	帰国	

3. 日本語日本文化研修留学プログラム留学生（日研生）対象の事業

3.1 [2011 日研生] 2012 年度春学期

表 7 2011 年度 10 月入学日研生（17 名）

氏名	国籍	指導教員
ショール・ヴェジェレーニイ・マテ・アルベルト	スウェーデン	岡 智之
ト・ゲンコウ	中国	谷部 弘子
ジョン・スンファ	韓国	斎藤 純男
グエン・ティ・ヒエン	ベトナム	許 夏玲
グエン・ミン・タオフォン	ベトナム	斎藤 純男
内山・フェリペ・龍平	ブラジル	島田めぐみ
レオスドットイル・ラグンヒルドウル・エヴァ	アイスランド	島田めぐみ
クローマ・ダニエーレ	イタリア	有澤 知乃
ニゾモフ・ウルグベク	ウズベキスタン	許 夏玲
イヴァノヴァ・アリサ	エストニア	谷部 弘子
ハナ・ブラナー	チェコ	島田めぐみ
ハインル・クリスティナ	ハンガリー	許 夏玲
グルスカ・アレクサンドラ・アグニェシカ	ポーランド	斎藤 純男
ネゴイツァ・アレクサンドラ・クリスティナ	ルーマニア	岡 智之
ルキナー・スヴェトラナ	ロシア	岡 智之
シロコラデユク・イリヤ	ロシア	谷部 弘子
ユラソワ・イリーナ	ロシア	島田めぐみ

主な行事

- 4 月 25 日 ジブリの森美術館の見学
- 6 月 09 日 コカ・コーラ社工場見学
- 6 月 20 日 田植え体験
- 6 月 27 日 貫井雛子ワークショップ
- 7 月 04 日 和菓子作りワークショップ
- 8 月 03 日 研究レポート発表会、日研生プログラム修了式

レポート集

『2011.10～2012.8 日本語日本文化研修留学生 研修レポート集』を発行した。

表 8 2011 年度 10 月入学日研生 修了レポート題目

題 目	氏 名
現代日本の歌の旋律と言葉の韻律	ショール・マテ
日本語における形容詞の短縮化－日本人若者による使用実態の例から－	ト・ゲンコウ
現代の日本における着物文化	ハナ・ブラナー
外国人による日本語のビジネスメールにおける誤り	ユラソワ・イリーナ
日本の先輩後輩関係	ネゴイツァ・アレクサンドラ・クリスティナ

在日留学生によるアルバイトの実態	グエン・ティ・ヒエン
日本の怪談と翻訳	内山・フェリペ・龍平
日本語とロシア語の主語と人称代名詞	ルキナー・スヴェトラナ
日本人のエコ意識－レジ袋を例に－	グエン・ミン・タオ・フォン
肖像を通じた王権の確立－明治天皇とアウグストゥス皇帝との比較－	クローマ・ダニエーレ
「甘え」の心理から見た「ひきこもり」という社会問題	イヴァノヴァ・アリサ
日本の映画に現れるユーモア	レオスドッティル・ラグンヒルドゥル・エヴァ
日本語における外来語	ニゾモフ・ウルグベク
日本のコントとポーランドのカバレットの比較	グルスカ・アレクサンドラ・アグニェシカ
日本の雇用制度の変化－日本人の意識変化を中心に－	ハイナル・クリスティナ
日本人の衛生観念および礼儀作法－東京学芸大学の日本人大学生を対象に－	ジョン・スンファ
日本の恥意識の変化	シロコラデユク・イリヤ

3.2 [2012 日研生] 2012 年度秋学期

表 9 2012 年度 10 月入学日研生 (19 名)

氏名	国籍	指導教員
ソンムアン・スワパット	タイ	許 夏玲
ピエホヴィアク・アンナ	ポーランド	有澤 知乃
ゴジェフスカ・ヨアンナ	ポーランド	岡 智之
イエプトゥシュク・イーゴル	ウクライナ	谷部 弘子
ワンパーガ・エカテリーナ	ベラルーシ	岡 智之
チャン・トウイ・ティ・ゴック	ベトナム	谷部 弘子
仲 瑩瑩	中国	島田 めぐみ
バンダカビ・ムルチュンジャヤ・ワムシ・クリシュナ	インド	岡 智之
ケーリ・シャンドリ	ハンガリー	許 夏玲
ソルホディーニー・ホッラムアーバッド・ヤーサマン	イラン	島田 めぐみ
カシモフ・ハサン	ウズベキスタン	許 夏玲
ウェードロワ・リュドミーラ	ベラルーシ	島田 めぐみ
スロボダン・ヤイツチ	セルビア	島田 めぐみ
カールソン・ソフィア・キャロリーナ	スウェーデン	谷部 弘子
賈 相閣	中国	谷部 弘子
ビレック・ゾーンケ	ドイツ	許 夏玲
袁 志清	中国	斎藤 純男
テープポン・チラーワット	タイ	斎藤 純男
李 尚劼	中国	斎藤 純男

主な行事

10 月 17 日 自転車安全教室に参加

10 月 31 日 防災セミナーに参加

- 11月07日 附属小金井小学校との交流授業
- 11月14日 江戸東京たてももの園見学
- 11月28日 ジャパン・セミナーに参加
- 12月05日 文楽鑑賞教室
- 12月12日 附属小金井小学校との交流授業
- 01月09日 防災館にて体験学習
- 01月30日 附属小金井小学校との交流授業
- 02月12日 都立淵江高校との交流授業

4. 短期留学プログラム（短プロ/ISEP）留学生対象の事業

4.1 [2011 短プロ/ISEP 生] 2012 年度春学期

表 10 2011 年度 10 月入学短プロ/ISEP 生（9 名）

	氏名	所属大学	指導教員
	個人研究題目		
1	ZHOU Mengwu 周 夢悟	上海師範大学	木村 守
	The Compatibility of Japanese Culture		
2	TANG Nga Man 鄧 雅文	香港中文大学	苫米地 伸
	The Relationship between Fans and Their Idols		
3	YUEN Pui Wah 袁 佩華	香港中文大学	松川 誠一
	University Students in a Community Volunteering Group		
4	LI Hiu Yan 李 曉欣	香港中文大学	浅野 智彦
	Japanese Men with Make-up: Perceptions of a Better Image?		
5	YAN Tzu-Ying 楊 子瑩	国立台湾大学	鈴木 琴子
	An Ideal Hokenshitsu from Elementary School Student's Point of View		
6	CHOW Mika 周 美香	ハワイ大学ヒロ校	射手矢 岬
	Volleyball Culture in Japan		
7	TSUTSUMI Michael	ハワイ大学ヒロ校	杉森 伸吉
	Comparison between American and Japanese Education		
8	BOGUSHEVSKAYA Nina	ハイデルベルグ大学	鈴木 廣之
	Crafts and Craftsmen in Japan		
9	GOEGAN Emilie	ヴィクトリア大学	高尾 隆
	Japanese Performance: The Underground Entertainment Scene		

主な行事

- 5 月 16 日 ジャパン・セミナー
- 6 月 13 日 歌舞伎鑑賞教室
- 6 月 27 日 貫井嚙子ワークショップ
- 8 月 6 日 個人研究発表会・閉講式

4.2 [2012 短プロ/ISEP 生] 2012 年度秋学期

表 11 2012 年度 10 月入学短プロ/ISEP 生（16 名）

	氏名	所属大学	指導教員
1	WANG Li 王 麗	南京師範大学	谷部 弘子

2	CHEN Daojing 陳 道競	南京師範大学	岩田 康之
3	AU Nga Ching 區 雅晴	香港中文大学	苔米地 伸
4	CHEUNG Hoi Ki 張 凱祺	香港中文大学	浅野 智彦
5	TAM Hoi Yen 譚 凱欣	香港中文大学	浅野 智彦
6	LIAO Ying-Chi 廖 英棋	国立台湾大学	杉森 伸吉
7	ASUNCION Pearl Divina	フィリピン教育大学	渋谷 英章
8	RASSMEECHAUNGCHOTE Kotchanach	シラパコーン大学	吉野 晃
9	LÖBEL Maria	トリア大学第 II 学部	坂井 俊樹
10	ARBA Alexandru	ハイデルベルグ大学	渋谷 英章
11	ALMVIDE Amanda	ヨテボリ大学	鉄矢 悦郎
12	PIHI Erin	ハワイ大学ヒロ校	島田 めぐみ
13	SAMBRANO Mitchell	ハワイ大学ヒロ校	馬場 哲生
14	TIMM Michael Alan	ボールステイト大学	杉森 伸吉
15	SUTHERLAND Sarah Jane	ボールステイト大学	佐藤 正光
16	RYAN Matt	キャンベラ大学	高山 芳樹

主な行事

12月7日 附属竹早小訪問

12月12日 茶道体験

4.3 その他

ISEP Report No.2 を発行した。

5. その他の活動

5.1 修了留学生ネットワーク構築事業

ソーシャルメディア Facebook 上にページ「東京学芸大学修了留学生ネットワーク」を設け、ネットワークの構築をはかった。

5.2 派遣留学支援事業

交流協定校の情報収集と希望者への情報提供を行った。

5.3 その他

5.3.1 自己点検・評価および広報活動

2011（平成 23）年度の年報を発行した。

留学生センターのホームページをリニューアルし、情報内容を充実させると同時に、レイアウトと文字の大きさも変え見やすくした。今後の英文情報の追加についても検討した。

5.3.2 防災関連事業

留学生にも防災知識を備えてもらうため、来日直後に防災館（立川市）での体験学習を実施した。

防災マニュアルの英語版（留学生用）の作成を検討した。

5.3.3 被災地支援事業

被災地における子どもの学び支援の一環として、学習用品の袋詰め 70 セットを宮城県名取市の子どもたちに贈った。

5.3.4. その他

留学生対象科目ならびに留学生と本学学生との共修科目に関する検討を行った。
生活支援部門についての検討を行った。

6. 教員の教育・研究活動

■有澤知乃

【所属部門】 日本理解教育部門

【研究分野】 民族音楽学、日本研究

【研究活動】

①著書

1. 'Dichotomies between 'Classical'and'Folk'in the Intangible Cultural Properties of Japan' Keith Howard (ed.) *Music as Cultural Heritage: Policy, Ideology, and Practice in the Preservation of East Asian Traditions*, pp.181-195.London:Ashgate. 2012.09
2. 'Akiko Fujii: Telling the Musical Life Stories of a Hereditary Jiuta Singer of Japan' Ruth Hellier (ed.) *Women Singers in Global Contexts: Music, Biography, Identity*. pp.38-53. University of Illinois Press. 2013.02
3. 「世界の子守唄」石井正己（編）『子守唄と昔話』 pp.129-145. 三弥井書店. 2013.03

②口頭発表

1. 'Chinatowns in Japan: Shaping Communities through Performing Arts' Asian Studies Conference Japan. 立教大学. 2012.06
2. 'Lion Dance in Japan's Chinatowns: Local Community and Global Network.' International Council for Traditional Music, Musics of East Asia Study Group Third International Symposium. Chinese University of Hong Kong. 2012.07
3. 「横浜関帝誕の中国文化—ローカル華僑からグローバル華僑へ—」日本民俗学会第 64 回年会. 東京学芸大学.2012.10

【教育活動】

留学生センター開設科目

（春学期）Modern and Contemporary Culture of Japan, Traditional Performing Arts of Japan
ISEP Seminar II, 「日本研究演習 B」

（秋学期）Cultural History of Japan, Introduction to Japanese Music , ISEP Seminar I, 「日本研究 B」

【その他の活動】

①学内

国際交流委員会短期留学プログラム部会

②学外

1. 科学研究費補助金 基盤研究（C）「e-Japanologyの構築に向けた基礎的研究」（研究分担者）
2. 東京外国語大学キャリア開発講座講師「留学生を通して知る世界と日本」 2012. 05
3. 東京外国語大学国際日本研究センター講演会講師「日本の伝統芸能と音楽の夕べ」 2013. 02

【所属学会】

International Council for Traditional Music, Society for Ethnomusicology, British Association for Japanese Studies, Association for Asian Studies, 東洋音楽学会、日本音楽学会

■岡 智之

【所属部門】 日本理解教育部門

【研究分野】 日本語文法、認知言語学、対照言語学

【研究活動】

①著書

1. 『場所の言語学』ひつじ書房、2012.3（平成24年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金研究成果公開促進費）交付）

②論文

1. 「現代朝鮮語のナル的表現の諸相」『日本認知言語学会論文集 第12巻』pp.553-557、2012.9

③口頭発表

1. ワークショップ「場の言語学とは何か」企画、司会、発表「場の言語学と認知言語学—その統合と発展」日本認知言語学会第13回大会、大東文化大学、2012.9

【教育活動】

留学生センター開設科目

（春学期）「日本語2文法A2」

学部開設科目

（春学期）「専門日本語・学術論文I（日本語1作文A1）」

（秋学期）「日本語文法論」、「言語学研究法」

大学院開設科目

（春学期）「言語学特論A」

（秋学期）「言語学特論B」

他大学出講（非常勤講師）

実践女子大学 「言語学概論 b」

免許更新講習「日本語教育と認知言語学」

【その他の活動】

①学内

小学校教員資格認定試験実施部会副会長

②学外

1. 科学研究費基盤研究(C)「言語コミュニケーションにおける場の理論の構築：近代社会の問題解決を目指して」（研究分担者）
2. 「場の言語・コミュニケーション研究会」立ち上げ。事務局長（2013.2～）
3. 日本認知言語学会理事、日本認知言語学会大会実行委員会委員

【所属学会】

日本認知言語学会（理事）、日本言語学会、日本語教育学会、日本語文法学会

■ 齋藤純男

【所属部門】 日本語教育部門

【研究分野】 言語学、音声学

【研究活動】

① 著書

「II 構音のしくみ」、加藤正子・竹下圭子・大伴潔編著『特別支援教育における構音障害のある子どもの理解と支援』学苑社、2012.05

③ 口頭発表

The Words for “Rain” in the Mongolic Languages: Their Geographical Distribution and History.
The First International Conference on Asian Geolinguistics, Aoyama Gakuin University, December, 2012.

【教育活動】

留学生センター開設科目

(春学期) 「日本語 1」、「日本語 1・2」、「日本語 4」

(秋学期) 「日本語 1・2」、「日研生特別演習 I」

学部開設科目

(春学期) 「アジア研究基礎論 E (言語政策)」、「アジア研究基礎演習 E (言語類型地理論)」

(秋学期) 「世界の諸言語」

【その他の活動】

① 学内

1. 総合教育科学系 Cブロック代表
2. 国際交流委員会委員
3. 協定校コーディネーター (ヨーテボリ大学)
4. アジア文化研究サークル顧問

② 学外

1. 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 中世モンゴル語研究の統合 (研究分担者)
2. 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 新発見の音声資料によるモゴール語の総合的研究 (研究代表者)
3. 言語聴覚士国家試験 問題作成委員 (2012.06まで)
4. 日本言語学会 夏期講座講師、2012.08
5. 日本音声学会 音声学入門講座講師、2013.03

【所属学会】

日本言語学会、日本音声学会 (評議員、選挙管理委員)、International Phonetic Association、日本音韻論学会、日本語学会、東方学会、The Altaic Society of Korea、日本モンゴル学会 (理事)、The Mongolia Society

■島田めぐみ

【所属部門】 日本語教育部門

【研究分野】 言語テスト、言語接触

【研究活動】

②論文

1. 「ハワイ日系二世の言語切替えに関するケーススタディ」『東アジア日本語教育・日本文化研究』15、東アジア日本語教育・日本文化研究学会、pp.137-148、2012
2. 「中国語母語話者の日本語語彙理解に必要な認知的要素—語彙能力認知診断テスト開発のための予備調査の結果から—」『東京学芸大学紀要総合教育科学系Ⅱ』64東京学芸大学、pp. 367-376、2012（谷部弘子・孫媛と共著）

③口頭発表

1. 「Can-do statements 項目から回答者は実際何を想起するか—国内と海外の日本語学習者の比較から—」『日本語教育国際研究大会予稿集第1分冊』p. 12、日本語教育国際研究大会、名古屋大学、2012. 8（鹿嶋彰・保坂敏子と共同）
2. 「日本語語彙能力認知診断テスト—予備調査の結果—」『日本語教育国際研究大会予稿集第2分冊』p. 282、日本語教育国際研究大会、名古屋大学、2012. 8（谷部弘子・孫媛と共同）
3. 「認知診断 モデルに基づく Web 日本語語彙テストの開発」第5回「日本語教育とコンピュータ」国際会議（CASTEL/J）、名古屋外国語大学、2012. 8（孫媛・谷部弘子と共同）
4. 「診断テスト開発のための日本語語彙認知的要素の検証」『東アジア日本語教育・日本文化研究学会 2012 年度国際学術発表大会発表要旨文』、東アジア日本語教育・日本文化研究学会 2012 年度国際学術発表大会、天理大学、2012. 11（谷部弘子・孫媛と共同）
5. 「診断テストを利用した日本語語彙能力に関するフィードバック」、国際ワークショップ：社会のイノベーションを誘発する情報システム（International Workshop on Information Systems for Social Innovation）、pp. 243-248、情報・システム研究機構新領域融合研究センター、2013. 2（谷部弘子・孫媛と共同）
6. 「診断的フィードバックのためのウェブ日本語語彙テストの開発」言語能力評価の最前線—運用力の評価を目指して—、2013. 3（谷部弘子・孫媛と共同）

④その他

報告書

『ことばでわかるハワイ1976年—ハワイ日本語新聞『ヒロタイムス』から』（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科（博士課程）平成23年度広域科学教科教育学研究経費）、2012（高橋久子・本田正文と共著）

講演

「教育場面における自己評価 Can-do statements の応用」、第3回言語教育評価フォーラム「Can-do statements をどう活用するか—課題と教育現場への応用—」、桜美林大学・国際交流基金 言語教育評価共同研究所、2012. 09

【教育活動】

留学生センター開設科目

（春学期） 「日本語 1 文法 A2」、「日研生特別演習 A」、「日本語 1・2 特別演習 A（プロジェクト）」

（秋学期） 「日本語 1 会話 B2」、「日本語 2 講読 B1」、「日本語 1・2 特別演習 B（プロジェクト）」

ト)」

大学院開設科目

(春学期) 「多言語多文化教育研究法 (de)」

(秋学期) 「多言語多文化教育研究法 (dm)」

【その他の活動】

①学内

1. キャンパスライフ委員会委員
2. 協定校コーディネーター (ハワイ大学ヒロ校、エアランゲン=ニュルンベルク大学)
3. 国際戦略本部認定留学「多言語多文化社会ハワイで日系移民について学ぶ」(2012.9.19-10.1) 企画、引率
4. 総合的道德教育プログラム・教材開発ワーキング「国際理解のための教材開発—留学生を通して知る世界のことばと文化—」(代表：谷部弘子)

②学外

1. 科学研究費補助金基盤研究(C)「ハワイ日系人によるコード切り替えに関する研究」(研究代表者)
2. 日本語教育学会 日本語教育能力検定試験認定事業委員会委員

【所属学会】

日本語教育学会、日本言語テスト学会、日本テスト学会、日本移民学会、社会言語科学会、東アジア日本語教育日本文化学会

■許 夏玲

【所属部門】 日本語教育部門

【研究分野】 談話分析、語用論、対照言語研究

【研究活動】

①著書

1. 『日本語の擬音語と擬態語（改訂版）』（電子書籍）wook 出版 2013
2. 『日语中的拟音语和拟态语』（電子書籍）wook 出版 2012

②論文

1. 「日本語の擬音語と擬態語の面白さ」“50th Anniversary Commemorative Volumn” ,
The Japan Society of Hong Kong.
2. 「短期留学生に見られる日本語能力の変化とその学習環境」『東京学芸大学紀要 総合教育科学系Ⅱ』 第64集, pp.359-366

③口頭発表

1. 「日本語会話における曖昧表現の使用目的と効果」香港第9回国際日本語教育・日本研究シンポジウム 2012.11
2. 「地域との提携による国際交流とその効果」第7回関西地区日本語教育学会研究集会 2012.9

④その他

「東京学芸大学留学生センターの取組と支援活動」関連事例集『わたしたちのまちづくり 一震災のあと行ってきたこと、これから行っていくこと』日本語教育国際研究大会、名古屋 2012 特別企画イベント

【教育活動】

留学生センター開設科目

（春学期） 「日本語1 漢字A」、「日本語2 文法A」、「日本語5 漢字A」

（秋学期） 「日本語2 文法B」、「日本語2 作文B」、「日本語5 漢字B」

大学院開設科目

（春学期） 「日本語研究特論C」

（秋学期） 「日本語研究特論D」

自主日本語ゼミ（春学期・秋学期） 月1回

【その他の活動】

①学内

1. 選挙管理委員会委員長
2. 幼稚園教員資格認定試験実施部会委員

②学外

日本語教育国際研究大会名古屋2012 分科会進行係 2012.8

第10回日本教育研究集会（名古屋大学）司会 2012.10

香港第9回国際日本語教育・日本研究シンポジウム 分科会司会 2012.11

【所属学会】

日本語教育学会、社会言語科学会、香港日本語教育研究会

■谷部弘子

【所属部門】 日本語教育部門

【研究分野】 日本語教育、日本語学

【研究活動】

②論文

1. 「日本語発話末イントネーションの知覚における母語転移—日本語母語話者および中国人・ドイツ人・フランス人日本語学習者データの比較から—」『ヨーロッパ日本語教育』16, pp. 65-97, 2012 (西沼行博・林明子と共著)
2. 「中国語母語話者の日本語語彙理解に必要な認知的要素—語彙能力認知診断テスト開発のための予備調査の結果から—」『東京学芸大学紀要 総合教育科学系Ⅱ』64, pp. 367-376, 2013 (孫媛・島田めぐみと共著)

③口頭発表

1. 「日本語語彙能力認知診断テスト—予備調査の結果—」, 日本語教育国際研究大会 名古屋2012, 名古屋大学, 2012.8 (『ことばが拓く新たな地平 人をむすび社会をつくる日本語教育を目指して 第2分冊』 p. 282) (孫媛・島田めぐみと共同)
2. 「認知診断モデルに基づくWeb日本語語彙テストの開発」, 第5回「日本語教育とコンピュータ」国際会議 (Castel/J), 名古屋外国語大学, 2012.8 (孫媛・島田めぐみと共同)
3. 「中国語話者のための日本語語彙能力診断テスト—アトリビュートの検証—」, 東アジア日本語教育・日本文化研究学会 2012年度国際学術発表大会, 天理大学, 2012.11 (島田めぐみ・孫媛と共同)
4. 「診断テストを利用した日本語語彙能力に関するフィードバック」, International Workshop on the 5th Information Systems for Social Innovation ISSI2012, 国立情報学研究所, 2013.2 (島田めぐみ・孫媛と共同)
5. 「診断的フィードバックのためのウェブ日本語語彙テストの開発」 言語能力評価の最前線—運用力の評価を目指して— 2-13.3 (島田めぐみ・孫媛と共同)

【教育活動】

留学生センター開設科目

(春学期) 「日本語1・2特別演習A (プロジェクト)」「日本語1特別演習A (時事日本語)」「日本語4漢字A」

(秋学期) 「日本語1・2特別演習B (プロジェクト)」「日本語4漢字A」

学部開設科目

(春学期) 「学芸フロンティア科目F」

大学院開設科目

(春学期) 「多言語多文化教育研究法」

(秋学期) 「多言語多文化教育学特論」

【その他の活動】

①学内

1. 企画評価室
2. 国際交流委員会短期留学プログラム部会
3. 協定校コーディネーター (ジャムス大学)

4. 総合的道德教育プログラム・教材開発ワーキング「国際理解のための教材開発―留学生を通して知る世界のことばと文化―」（平成24年度）（代表）

②学外

1. 科学研究費基盤研究(B)「日本語教育スタンダードにおける漢字力の評価に関する研究」（2011年度～2014年度）（研究分担者）
2. JICA日本語教育支援委員会委員
3. JICA技術専門委員・技術補完研修講師
4. 東京外国語大学留学生日本語教育センター教育関係共同利用拠点運営委員会委員

【所属学会】

日本語教育学会、日本語学会、社会言語科学会（編集委員）、EAJS（ヨーロッパ日本研究協会）

資料 1 日本語科目（日本語 1～5）一覧（*印は学部開設科目）

■ 春学期

レベル 1

日本語 1 総合 A

東泉裕子（ひがしいずみ ゆうこ）木・2 N313

【目標】 様々な種類の文章を読み、理解したり感じたりしたことを自分の言葉や方法で表現することによって、総合的な運用能力を身につける。

【内容】 日本の文化や社会に関する新聞の特集記事、新書からの抜粋、ドキュメンタリー番組などの内容や語彙・表現を確認するとともに、情報を整理して、自分の意見や感想をまとめる、他の人の意見や感想を聞くなどの活動を行う。

【テキスト】 プリント配布

【評価方法】 出席・授業への参加度 50%、課題・発表 50%を目安として総合的に評価

* 日本語 1 作文 A1（専門日本語・学術論文 I）

岡智之（おか ともゆき）火・2 C203

【目標】 複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものが書けるようになる。

【内容】 日本語でレポート、研究発表要旨、学術論文などを書く力をつけることを目的とし、そうした学術的文章でよく使われる文型・表現や展開パターンを学んでいく。自分のテーマを設定し、実際に論文を書き進めていき、完成させる。

【テキスト】 アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』アルク、2002、1800 円

【評価方法】 平常点（授業への参加・貢献度）30%、毎回の提出課題 40%、最終レポート 30%

日本語 1 作文 A2

斎藤純男（さいとう よしお）木・2 S207

【目標】 複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものが書けるようになる。

【内容】 さまざまなパターンの文章を書く練習をする。課題を毎週決められた日までにメールで提出する。教室では提出されたものを基に、よりよい文章にするにはどうしたらいいかを考える。

【テキスト】 プリント配布

【評価方法】 課題の提出 80%、出席 20%を目安とする

日本語 1 講読 A1

桂千佳子（かつら ちかこ）月・2 S107

【目標】 複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものが読めるようになる。

【内容】 いくつかのテーマを決め、そのテーマについての複数の媒体の文章を読み込んでいく。特に、読みとった内容の論理関係を自分の頭の中で組み立てながら理解していく作業に慣れるようにする。

【テキスト】 配布プリント

【評価方法】 2回のテスト平均点70%、出席点30%

日本語 1 講読 A2

新谷あゆり（しんや あゆり）金・4 N107

【目標】 複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものが読めるようになる。

【内容】 短編小説を読み、語彙や表現を学ぶ。

【テキスト】 プリント

【評価方法】 出席 30%、課題 30%、漢字テスト 40%

* 日本語 1 会話 A1（専門日本語・学術発表 II）

内田紀子（うちだ のりこ）木・1 N202

【目標】 複雑で、抽象的なことが話せ、相手や場面に応じた適切な話し方ができる。まとまった内容の抽象的な談話、専門的な談話が理解できるようになる。

【内容】自身の関心事からテーマを決定し、新聞やインターネットなどから得た情報を利用して話題提供をする。それを受けて、グループディスカッションを行う。

【テキスト】特になし。

【評価方法】授業中の参加状況 30%、課題 30%、発表 40%

日本語 1 会話 A2

坂田睦深（さかた むつみ）火・1 N313

【目標】複雑で、抽象的なことが話せ、相手や場面に応じた適切な話し方ができる。まとまった内容の抽象的な談話、専門的な談話が理解できるようになる。

【内容】

授業の前半では、インタビュー、情報提供・意見表明スピーチ等を行う。後半では、各自が自分でテーマを決め、調査を行い、レジュメを作成し、プレゼンテーションとその評価を行う。ペア・ワークやグループワークがあるが積極的に参加してほしい。

【テキスト】プリント配布

【評価方法】出席・平常点 40%、スピーチ、プレゼンテーション 60%で評価する予定。出席重視を重視する。欠席が 5 回以上の場合には単位は認められない。

日本語 1 文法 A1

上野左絵（うえの さえ）月・4 C102

【目標】上級の文法項目を習得する。

【内容】日本語能力試験 1 級レベルの問題を解きながら上級の文法項目を理解し、使えるようにする。

【テキスト】プリント配布

【評価方法】出席と授業への積極性30%、小テストまたは課題20%、試験50%

日本語 1 文法 A2

島田めぐみ（しまだ めぐみ）火・4 N105

【目標】上級の文法項目を習得する。

【内容】エッセイ、論文など生教材から、上級レベルの文法的表現を学ぶ。

【テキスト】プリントを配布する

【評価方法】出席・授業への参加度30%、小テスト35%、期末テスト35%

日本語 1 聴解 A

石崎晶子（いしざき あきこ）木・4 N313

【目標】複雑で抽象的な談話の流れが聞き取れるようになる。

【内容】ノートを取りながら、ある程度まとまった量のテキストを聞く練習をする。また、聞き取った内容を元に、意見を交換する。

【テキスト】プリント配布

【評価方法】テスト 40%、提出物 30%、授業への参加度 30%

日本語 1 漢字 A

許夏玲（ファイ ハーリン）月・3 N207

【目標】1000 字程度の漢字およびそれを使った語彙の運用力をつける。

【内容】各専門分野に特徴的な漢字語彙、類義語の意味用法の相違などを学習する。学習者の要望によりテキストの中から関心のあるテーマの課を選んで扱う予定である。課ごとに復習テストを行う。

【テキスト】『Intermediate Kanji Book, Vol.2』凡人社

【評価方法】出席 40%、復習テスト 20%、期末テスト 20%、宿題 20%

日本語 1 特別演習 A（時事日本語）

谷部弘子（やべ ひろこ）木・3 N102

【目標】現代社会に対する理解を深めながら、ディスカッションなどの活動を行い、自分の考えを論理的に述べる力をつける。

【内容】比較的身近な現代社会の出来事に関する文章やニュースを読み、文章中の内容や表現について確認するとともに内容について各自意見を述べ、また、他の人の意見を聞いた上で自分の意見を文章化する。

【テキスト】新聞記事など

【評価方法】学習の過程 70%、学習の結果（最終課題） 30%

*** 日本語 1 特別演習 A（専門日本語・ビジネス I）**

許 哲（ホ チョル） 木・3 N102

【目標】ビジネス（特に就職するまでの過程）に不可欠な日本語、留学生として日本で生活をしていく上で必要な日本語を基本から学ぶ。

【内容】日本語に関するコミュニケーション能力向上のための実践的な演習。

【テキスト】授業時にプリントを配布する。

【評価方法】出席状況などの平常点（20分以上の遅刻は原則として出席と認めない。また、出席時数が3分の2に満たない者は失格とする。）学期末の筆記試験（ノート・プリント等の持ち込みは可。ただし、電子機器類は不可。試験の無断欠席は失格とする。）

日本語 1・2 発音 A

斎藤純男（さいとう よしお）火・5 N313

【目標】日本語らしいアクセント・イントネーションを身につける。

【内容】アクセントとイントネーションの概要を学び、練習する。

【テキスト】プリントを配布する。

【評価方法】出席と授業への取組み状況による。

日本語 1・2 特別演習 A（プロジェクト）（学芸フロンティア科目）

谷部弘子（やべ ひろこ）、島田めぐみ（しまだ めぐみ）火・3 N313

【目標】教室内外の活動を通して、相手や内容に応じて発信する力をつける。

【内容】この授業は、日本人学生との合同授業です。日本人と一緒に、日本やその他の国の文化やことばについて調べたり、議論したり、発表したりします。グループ活動をしますので、できる限り欠席しないこと。

【テキスト】プリントを配布します。

【評価方法】授業/課題への参加度、発表、レポートの結果などから総合的に評価します。

レベル 2

日本語 2 総合 A

横山和子（よこやま かずこ） 月・4 N313

【目標】他者との考えや意見のやりとりを通して、「自分の考え」を自分自身でつかみ、他者にわかるように表現していくという形で、日本語での表現力をつけていく。テーマを設定し、調査、発表、レポートを書くことを通して、生きた日本語の総合力を身につけていく。

【内容】前半は「異文化コミュニケーション」「公共の場でのマナー」「日本の教育」の3つテーマについて、後半はクラス受講学生の関心のあるテーマについて、図書、新聞記事、統計資料などを読み、現代日本社会についての理解を深める。内容を予測しながら文章を読む力、読みとった内容を日本語で表現する力、物事に対する自分の意見を論理的に述べる力をつけることを目指す。配布するプリントを各自予習することになっており、クラスではより理解を深めるためのグループ活動を中心に行う。また、テーマごとに、発表やディスカッションなどの活動を行う。

【テキスト】プリントを配布

【評価方法】出席・授業への積極性50%、活動（内容・日本語）50%

日本語 2 作文 A1

桂千佳子（かつら ちかこ）月・3 S107

【目標】自分の意見を述べたり、待遇表現が使えるようになる。

【内容】テキストで学んだことを生かして作文を書く。

【テキスト】『大学・大学院留学生の日本語② 作文編』

【評価方法】毎回の課題作文評価+文法問題に関するテスト 70%、出席点 30%

日本語 2 作文 A2

小池恵己子（こいけ えみこ）木・4 N207

【目標】自分の意見を述べたり、待遇表現が使えるようになる。

【内容】・書きことばの文体を復習し、自分の知っていることがらの説明やあるトピックについての意見をわかりやすい文章で書けるように練習する。

- ・手紙、メール文を送る相手によって適切な待遇表現が使えるように、メッセージのやりとりを書いて練習する。
- ・グループやペアでお互いの作文を読んだり、書いてまとめたりする学習活動も行いたい。

【テキスト】プリントを配布する

【評価方法】作文 60%、宿題 15%、授業への参加度 15%、出席 10%

日本語 2 講読 A1

上野左絵（うえの さえ） 月・5 N313

【目標】具体的な文章内容で、ある程度の長さの文章が読めるようになる。

【内容】論説文を中心に、さまざまな文章を実際に読みながら、内容を理解し、考え、自分の意見を述べるができるよう練習する。文章に特有の表現や語彙についても学ぶ。

【テキスト】『大学・大学院 留学生の日本語①読解編』（アルク）を予定。

【評価方法】出席と授業への積極性30%、小テストまたは課題20%、試験50%

日本語 2 講読 A2

荒巻朋子（あらまき ともこ） 火・2 N302

【目標】具体的な文章内容で、ある程度の長さの文章が読めるようになる。

【内容】新聞雑誌記事、説明文、エッセイ、グラフ、小説などを読み解き、その中の表現、語彙を同時に学習する。また学生自身が新聞記事などから好きな読み物を選び発表、ディスカッションも行う。

【テキスト】『トピックによる日本語総合演習』

【評価方法】出席20%、テスト40%、授業への参加度20%、発表20%

日本語 2 会話 A1

笹目実（ささめ みのる） 月・1 N313

【目標】自分の考えや気持ちを伝えることができるようになる。具体的なまとまった談話が理解でき、抽象的なものも流れが理解できるようになる。

【内容】一般的な話題を取り上げる。語彙・表現を豊かにする。ペアワーク、グループワーク、発表を行う。

【テキスト】荻原・増田・齊藤・伊藤『日本語上級話者への道』スリーエーネットワーク

【評価方法】出席 30%、授業への参加度 30%、課題 20%、発表 20%

日本語 2 会話 A2

新谷あゆり（しんや あゆり） 金・3 N313

【目標】自分の考えや気持ちを伝えることができるようになる。具体的なまとまった談話が理解でき、抽象的なものも流れが理解できるようになる。

【内容】テーマを設定し、ディスカッションやディベート、ロールプレイなどを行う。

【テキスト】プリント

【評価方法】出席30%、積極性10%、会話30%、テスト30%

日本語 2 文法 A1

許夏玲（ファイ ハーリン） 火・4 N313

【目標】中級後半～上級の文法項目を習得する。

【内容】談話文法を中心に、学習者にとって難しいと思われる文法項目や文型の意味、用法、機能を学び、類似表現との使い分けができるように練習する。

【テキスト】プリント配布

【評価方法】出席 40%、宿題 30%、中間テスト+期末テスト 30%

日本語 2 文法 A2

岡智之（おか ともゆき） 金・4 N313

【目標】中級後半～上級の文法項目を習得する。

【内容】文章や会話を的確に理解し、表現するために必要な文法や文型の意味、機能を学ぶ。教科書の中の課を選択して授業を進める。

【テキスト】『中級日本語文法要点整理ポイント 20』（スリーエーネットワーク）、2000 円

【評価方法】平常点（授業への参加・貢献度）30%、小テスト・提出物 20%、期末テスト 50%

日本語2 漢字 A

横山和子（よこやま かずこ） 月・2 N207

【目標】750字程度の漢字とその漢字を使ったことばを学習する。

【内容】漢字とその漢字を使った語を勉強し、使い方を覚える。毎回、小テストを行う。

【テキスト】『Intermediate Kanji Book』Vol.1、凡人社

【評価方法】出席・授業への積極性20%、小テスト40% 定期試験40%

日本語2 聴解 A

澁川晶（しぶかわ あき） 金・2 N313

【目標】具体的なまとまった談話が理解でき、抽象的なものも流れが理解できるようになる。

【内容】いろいろな音声や映像を通して、聴くトレーニングをする。授業では、似た音の聞き分けなどの基礎的な練習と、テレビ番組や歌などを理解する実践的な練習を行う。

【テキスト】プリントを配布する。

【評価方法】出席・授業への参加度・積極性50%、小テスト・試験50% *欠席5回以上の場合には「失格」とする。

日本語2 日本語特別演習 A（ドラマで学ぶ日本語）

宮本典以子（みやもと ていこ） 水・2 N313

【目標】まとまった談話の流れが理解できるようになる。自分の考えを伝えることができるようになる。

【内容】日本のドラマや映画を鑑賞し、「話しことば」を実践的に学びます。1～3週で1作品の予定。毎週感想シートを提出。最終アンケートでは1作品を選んで感想等を提出。扱う作品は、1回目に協議して決定しますが、日本語のレベルなどにより変更することもあります。

【テキスト】なし

【評価方法】授業への参加度40%、感想シート40%、最終アンケート20%

日本語2 日本語特別演習 A（ビジネス日本語）

福島恵美子（ふくしま えみこ） 木・3 N313

【目標】ビジネス場面での電話応対や連絡・報告などができるようになる。

【内容】面接や電話応対など、ビジネス場面で見られる会話について学習し、実践につながるような会話練習を行うことで、ビジネス・コミュニケーション能力を身につける。また、ビジネス場面で重要になる敬語についても学習する。

【テキスト】プリント配布

【評価方法】出席率20%、参加態度20%、会話・発表40%、レポート20%

レベル3

日本語3 総合 A

伊能裕晃（いのう ひろあき） 火・3 N107

【目標】初級後半の文法項目や語彙を復習しながら、中級レベルの語彙表現を学ぶ。具体的なことが説明できるようになる。日常的で具体的な談話が理解できるようになる。

【内容】日本語の中級の文法や語彙を覚えて、使えるようになるように、いろいろな練習をします。文章を読んでもくる宿題や作文を書く宿題があります。

【テキスト】『日本語5つのとびら ー中級編ー』凡人社

『日本語5つのとびら ー中級編 漢字・語彙練習ー』凡人社

【評価方法】出席・授業への参加度40%、宿題20%、テスト40%

日本語3 応用 A

伊能裕晃（いのう ひろあき） 火・4 N107

【目標】初級後半の文法項目や語彙を復習しながら、中級レベルの語彙表現を学ぶ。具体的なことが説明できるようになる。日常的で具体的な談話が理解できるようになる。

【内容】大学でよく使う日本語を勉強しましょう。読む、聞く、話す、書くなどいろいろな練習をします。文章を読んでもくる宿題や作文を書く宿題などがあります。

【テキスト】『日本語5つのとびら ー中級編ー』凡人社

『日本語5つのとびら ー中級編 漢字・語彙練習ー』凡人社

【評価方法】出席、授業への参加度 40%、宿題 20%、テスト 40%

日本語 3 作文 A

坂田睦深（さかた むつみ） 火・2 N313

【目標】具体的で、ある程度まとまりのある文章が書けるようになる。

【内容】下記のテキストを使用し、表現や文法を学びながら、書き言葉で原稿用紙（げんこうようし）に書く。学期中に4回原稿用紙に書いて提出する。自宅で書く場合には、パソコンで書いてもよいが、日本語のチェック後返却されたものを、原稿用紙に手書きで清書（せいしよ）する。自己評価表作成や、短作文、小テストもある。テキストと辞書を持参してほしい。

【テキスト】『にほんご作文の方法』（第三書房）

【評価方法】出席・提出物（評価表や小テスト、短作文）等 40%、作文・清書 60%で評価する予定。出席重視（じゅうし）のクラスで、欠席が5回以上の場合には単位は認められない。

日本語 3 講読 A

桂千佳子（かつら ちかこ） 月・4 N107

【目標】日常的で長くない文章が読めるようになる。

【内容】色々なことについて、日本語で調べて、情報をとることに慣れるようにする。

【テキスト】配布プリント

【評価方法】2回のテスト平均点 70%、出席点 30%

日本語 3 会話 A1

笹目実（ささめ みのる） 月・2 N313

【目標】具体的なことが説明できるようになる。日常的で具体的な談話が理解できるようになる。

【内容】どのような場面で、どのように会話するか、まず、ロールプレイをしてみます。その後で、重要と思われる表現、単語を使う練習などもします。

【テキスト】プリント配布

【評価方法】出席 30%、授業への参加 30%、課題 20%、発表 20%

日本語 3 会話 A2

福島恵美子（ふくしま えみこ） 木・4 N107

【目標】具体的なことが説明できるようになる。日常的で具体的な談話が理解できるようになる。

【内容】頼んだり、誘ったりする時の会話を学ぶ。相手にあわせて、敬語などを適切に使う練習をする。学期後半は、学習した会話を使用して、グループでミニドラマを作成し、発表する。

【テキスト】プリント配布

【評価方法】出席率 30%、参加態度・宿題 30%、会話 20%、発表 20%

日本語 3 漢字 A

横山和子（よこやま かずこ） 月・3 N313

【目標】基本漢字 400~500 を学ぶ。

【内容】クラスでは練習を中心（ちゅうしん）にします。予習（よしゅう）してきてください。毎回小テストをします。

【テキスト】『Basic Kanji Book Vol.2』 凡人社

【評価方法】授業（じゅぎょう）への積極性（せっきょくせい） 20%、小テスト 40%、定期試験（ていきしけん） 40%

日本語 3 聴解 A

小池恵己子（こいけ えみこ） 木・3 N201

【目標】日常的で具体的な談話が理解できるようになる。

【内容】・日常生活のいろいろな場面の会話を聞いて、内容、話の流れがわかるように聞きとりの練習をします。話しことばや話し方の特徴（とくちょう）についても勉強します。また、あるトピックについての説明を聞いて、ポイントをつかんで内容をかたんにまとめる練習をしましょう。

【テキスト】プリントをくばります。

【評価方法】テスト 40%、クイズ 20%、授業への参加度・出席 30%、宿題 10%

レベル4

【テキスト】

- 「総合」 『みんなの日本語 初級 II 本冊』、『にほんご おしゃべりのたね』
- 「応用」 『みんなの日本語 初級 II 初級で読めるトピック 25』、『みんなの日本語初級 II 聴解タスク 25』
- 「漢字」 『基本漢字 500 Vol. 2』

レベル5

【テキスト】

- 「総合」 『日本語初級 大地 1, 2』
- 「文字」 『一人で学べる ひらがな かたかな』『Basic Kanji Book, Vol.1』
- 「会話」
- 「聴解」
- 「作文」

■秋学期

レベル1

日本語1 総合B

東泉裕子（ひがしいずみ ゆうこ） 木・2 S407

【目標】複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものを総合的に理解し、意見や感想を交換できるようになる。

【内容】日本の文化や社会に関する文章を読んだり、関連する映像を視聴したりする。そこで使われている語彙・表現を確認するとともに、情報を整理して、自分の意見や感想をまとめる、他の人の意見や感想を聞くなどの活動を行う。また、一つの文章を複数の人で声に出して読む「群読」にも取り組んでみたい。

【テキスト】プリント配布

【評価方法】出席・授業への参加度 30%、小テスト（漢字、語彙・表現などの復習）20%、課題・発表 50%を目安として総合的に評価する。

*日本語1 作文B1[専門日本語・学術論文I]

内田紀子（うちだ のりこ） 火・2 N107

【目標】複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものが書けるようになる。

【内容】実践を通して論理的な文章とは何かを理解していきます。

各自が文章を書き、その文章が論理的かどうか他者の目（授業受講者）を通して確認します。

他者の文章を読むことで自らが書いた文章を見直し、客観的な視点で文章を捉え直します。

また、授業では、論理的な文章を書くために必要な文献の引用のし方を重点的に扱う予定です。

【テキスト】特に定めません

【評価方法】授業参加度 30% 提出物 30% レポート 40%

日本語1 作文B2

笹目実（ささめ みのる） 水・2 S407

【目標】複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものが書けるようになる。

【内容】

【テキスト】

【評価方法】

日本語1 講読 B1

桂千佳子（かつら ちかこ） 月・2 C103

【目標】複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものが読めるようになる。

【内容】いくつかのテーマを決め、そのテーマについての複数の媒体の文章を読み込んでいく。特に、読みとった内容の論理関係を自分の頭の中で組み立てながら理解していく作業に慣れるようにする。

【テキスト】配布プリント

【評価方法】2回のテスト平均点 85%、出席点 15%

日本語 1 講読 B2

日本語 1 講読 A2

新谷あゆり (しんや あゆり) 金・2 N104

【目標】複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものが読めるようになる。

【内容】小説『GO』金城一紀を 13 回で 1 冊読む。多読の授業。漢字のテストも行う。

【テキスト】『GO』 金城一紀 角川文庫 460 円 2000 年

【評価方法】1 出席率 20% 2 積極性 10% 3 課題 30% 4 テスト 40%

* 日本語 1 会話 B1 (専門日本語・学術発表Ⅱ)

矢沢悦子 (やざわ えつこ) 木・1 S307

【目標】複雑で、抽象的なことが話せ、相手や場面に応じた適切な話し方ができる。まとまった内容の抽象的な談話、専門的な談話が理解できるようになる。

【内容】自分の関心に基づいて調べたことを、パワーポイントを利用してプレゼンテーションする。自身のプレゼンテーションの仕方をモニターすることを通して、より分かりやすく、インパクトのあるプレゼンテーションの方法(話し方や資料の示し方)を考える。

【テキスト】特定のテキストは使用しない。

【評価方法】出席(20%) 授業中の参加状況(20%) プレゼンテーション(40%) レポート(20%)

日本語 1 会話 B2

島田めぐみ (しまだ めぐみ) 木・3 N402

【目標】複雑で、抽象的なことが話せ、相手や場面に応じた適切な話し方ができる。まとまった内容の抽象的な談話、専門的な談話が理解できるようになる。

【内容】授業の前半では、映画を見ながら、その内容を説明しながら、具体的な内容だけではなく抽象的な内容も表現できるように練習する。後半は、日本人へのインタビューを行い、その録音内容を聞き取りながら、内容を理解する練習を行う。

【テキスト】プリント配布

【評価方法】出席 40%、授業への参加度 30%、課題 30%

日本語 1 文法 B1

李貞旼 (イ ジョンミン) 水・1 S407

【目標】上級の文法項目を習得する。

【内容】日本語能力試験 N1, N2 に相当する項目を中心に中上級の文法問題を解きながら、復習、整理し、上級の文法項目を習得する。また敬語表現を復習し、定着をはかる。

【テキスト】プリント配布

【評価方法】出席・授業への参加度 30%、小テスト 35%、期末テスト 35%

日本語 1 文法 B2

石崎晶子 (いしざき あきこ) 木・4 N402

【目標】上級の文法項目を習得する。

【内容】身近にあるさまざまな素材から、上級らしい表現、敬語、男女差、文体の使い分け等を学ぶ。

【テキスト】プリントを配布する

【評価方法】出席と授業への参加度 20%、課題 20%、小テスト 20%、試験 40%

日本語 1 聴解 B

飯野清志 (いいの きよし) 金・1 N313

【目標】複雑で抽象的な談話の流れが聞き取れるようになる。

【内容】授業の前半では教科書を使ってニュースの構成について学び、後半ではテレビ番組から録画したものを視聴しながら実践的な聴解力を養成する

【テキスト】『ニュースの日本語 聴解 50』、プリント配布

【評価方法】授業参加度 30%、課題 30%、テスト 40%

日本語 1 漢字 B

桂千佳子 (かつら ちかこ) 月・3 C103

【目標】1000 字程度の漢字およびそれを使った語彙の運用力をつける。

【内容】各専門分野に特徴的な漢字語の学習を通して語彙を広げていく。先学期に扱わなかった課を中心に、テキストの中から4～6つの課を選んで扱う予定である。課ごとに復習テストを行う。

【テキスト】『Intermediate Kanji Book』Vol.2、凡人社

【評価方法】テスト平均点40%、課題点30% 出席+授業参加点30%

日本語1 特別演習B (小説)

荒巻朋子 (あらまき ともこ) 火・1 N313

【目標】現代日本文学の作家に対する知識を高め、主な作品に触れる。

【内容】日本の現代文学にはどのような作家がいるかその概要をつかみ、古いものから新しいものまでいくつかの作品に触れて、日本の小説に対する基本的な知識を得るとともに、小説を読むきっかけを作る。また学生に読んだ小説の発表もしてもらう。

【テキスト】プリントを配布

【評価方法】出席20% 授業への参加度20% 課題30% 発表30%

日本語1 特別演習B (ビジネス日本語) [専門日本語・ビジネスⅡ]

許 哲 (ホ チョル) 金・2 S207

【目標】ビジネス (特に、就職するまでの過程) に不可欠な日本語、留学生として日本で生活をしていく上で必要な日本語を基本から学ぶ。

【内容】日本語に関するコミュニケーション能力向上のための実践的な演習。

【テキスト】授業時にプリントを配布する。

【評価方法】・出席状況などの平常点 (20分以上の遅刻は原則として出席と認めない。また、出席時数が3分の2に満たない者は失格とする。)

・学期末の筆記試験 (ノート・プリント等の持ち込みは可。ただし、辞典、電子機器類は不可。無断欠席者は失格とする。)

日本語1・2 発音 B

斎藤純男 (さいとうよしお) 木・5 N313

【目標】日本語らしいアクセント・イントネーションを身につける。

【内容】アクセントとイントネーションの概要を学び、練習する。

【テキスト】プリントを配布する。

【評価方法】出席と授業への取り組み状況による。

日本語1・2 日本語特別演習B (プロジェクト)

谷部弘子 (やべ ひろこ)、島田めぐみ (しまだ めぐみ) 火・3 N313

【目標】教室内外の活動を通して、相手や内容に応じて発信する力をつける。

【内容】テーマに沿って調べたり発表したりする。小学校訪問など授業時間以外にも活動をおこなうことがあるので、積極的に参加できることが条件です。

【テキスト】なし

【評価方法】授業への参加状況や課題・発表など総合的に評価する。

レベル2

日本語2 総合B

横山和子 (よこやまかずこ) 月・4 N313

【目標】日本社会の理解につながる文章を読み、読解力をつけるとともに、テーマにそって自分の意見を論理的に表現できるようにします。

【内容】「ライフ・ヒストリー」「好きな言葉」「若者」「外国人」の4つのテーマで、図書、新聞記事、統計資料などを読み、現代日本社会についての理解を深めます。内容を予測しながら文章を読む力、読みとった内容を日本語で表現する力、物事に対する自分の意見を論理的に述べる力をつけることを目指します。

【テキスト】コピーを配布します。

【評価方法】出席・授業への積極性50%、活動 (内容・日本語) 50%

日本語2 作文 B1

許夏玲 (フイ ハーリン) 月・3 N313

【目標】自分の意見を述べたり、待遇表現が使えるようになる。

【内容】様々な分野での文章の書き方、スタイルを学ぶと同時に、日本語の文章を書くために必要なルールを学ぶ。

【テキスト】プリント配布

【評価方法】出席 50% 宿題 50%

日本語 2 作文 B2

小池恵己子（こいけ えみこ） 木・4 N401

【目標】自分の意見を述べたり、待遇表現が使えるようになる。

【内容】・日本語の表記のしかた、書きことばの文体を復習する。

・自分の知っていることがらについて説明したり、理由や例をあげて自分の意見を述べたりして、わかりやすい文章が書けるように練習する。

・相手の立場を考え、適切な待遇表現を使って手紙やメール文が書けるように練習する。

・グループやペアでおたがいの作文を読む学習活動も行う。

【テキスト】プリントを配布する

【評価方法】作文 60%、宿題 15%、授業への参加度 15%、出席 10%

日本語 2 講読 B1

島田めぐみ（しまだ めぐみ） 水・2 N313

【目標】具体的な文章内容で、ある程度の長さの文章が読めるようになる。

【内容】大学生向けに書かれた新書を中心に読み、内容を理解するとともに、文章に特有の表現や語彙についても学ぶ。

【テキスト】プリントを配布する。

成績評価方法 出席 30%、小テスト 30%、試験 40%

日本語 2 講読 B2

飯野清志（いいの きよし） 金・2 N313

【目標】具体的な文章内容で、ある程度の長さの文章が読めるようになる。

【内容】さまざまなジャンルの文章を読んで、日本語の文章を読む“コツ”を学ぶ

【テキスト】『留学生のための読解トレーニング』凡人社

【評価方法】授業参加度 30%、課題 30%、テスト 40%

日本語 2 会話 B1

坂田睦深（さかた むつみ） 火・2 N313

【目標】自分の考えや気持ちを伝えることができるようになる。具体的なまとまった談話が理解でき、抽象的なものも流れが理解できるようになる。

【内容】授業の前半では、インタビュー、ロールプレイ、敬語の使い方の練習をする。後半では、方法を説明するスピーチ、映画や本、ニュースなどの情報を提供するスピーチを聞いてコメントを述べたり、簡単なディベートを行ったりする。

【テキスト】プリント

【評価方法】出席・授業への参加度 30%、インタビュー・ロールプレイ 30%、スピーチ 40%で評価する予定。出席重視を重視する。欠席が 5 回以上の場合には単位は認められない。

日本語 2 会話 B2

澁川晶（しぶかわ あき） 金・4 N313

【目標】自分の考えや気持ちを伝えることができるようになる。具体的なまとまった談話が理解でき、抽象的なものも流れが理解できるようになる。

【内容】テレビ番組や新聞記事の内容について、自分の考えや意見が言えるように練習する。トピックに応じて、ディスカッションやスピーチなど、いろいろなスタイルで話す練習をする。ただ話して終わりにならないよう、毎回出てきた語彙・表現についても学習する。

【テキスト】プリントを配布

【評価方法】出席 20%、授業への参加度（積極性）30%、課題 30%、発表 20%

日本語 2 文法 B1

内田紀子（うちだ のりこ） 火・1 N207

【目標】中級後半～上級の文法項目を習得する。

【内容】学習者にとって難しいと思われる文法項目や用法、機能を学ぶ。また、自らの文法上の課題を客観的に捉え、その課題に関して各自が問題を作成し、説明を行う。

【テキスト】プリント配布

【評価方法】授業参加度 30%、課題 40%、期末テスト 30%

日本語 2 文法 B2

許夏玲（ファイ ハーリン） 木・2 N313

【目標】中級後半～上級の文法項目を習得する。

【内容】談話文法を中心に、学習者にとって難しいと思われる文法項目や文型の意味、用法、機能を学び、類似表現との使い分けができるように練習する。

【テキスト】プリント配布

【評価方法】出席 40%、宿題 30%、中間テスト+期末テスト 30%

日本語 2 漢字 B

横山和子（よこやま かずこ） 月・2 N313

【目標】750 字程度の漢字とその漢字を使ったことばを学習する。

【内容】2 回で 1 課進めます。毎課、予習として、漢字シート（配布）・教科書の「復習」・「要点」をしてきてください。毎週、宿題があります。毎課、クイズをします。定期試験（中間試験と期末試験）があります。

【テキスト】『Intermediate Kanji Book』Vol.1、凡人社

【評価方法】宿題 30%、クイズ 30%、定期試験 40%

日本語 2 聴解 B

新谷あゆり（しんや あゆり） 金・3 N313

【目標】具体的なまとまった談話が理解でき、抽象的なものも流れが理解できるようになる。

【内容】NHK ニュースや館内アナウンスなどを聞き取る練習を行う。

1 内容把握。2 聞き取りにくい単語を正確に聞き取り、書き取る。3 スクリプトに出てきた漢字を次の週にテストする。

【テキスト】プリントを配布

【評価方法】1 出席率 30% 2 授業での聞き取り 20% 3 漢字テスト、期末テスト 50%

日本語 2 特別演習 B（マンガで学ぶ日本語）

宮本典以子（みやもと ていこ） 水 1 N313

【目標】マンガ特有の会話表現を学ぶ。具体的なまとまった談話が理解できるようになる。

【内容】マンガ・アニメの鑑賞を通して、「話し言葉」の表現を実践的に学びます。扱う作品は、第 1 回目に協議して決定しますが、日本語のレベル等により授業開始後に予定を変更する場合があります。作品鑑賞後に意見交換・アンケートシート記入等を行います。

*授業外でのマンガ・アニメ多読・多聴記録ノート（提出は自由）歓迎します。

*マンガの描き方は授業では扱いません。

【テキスト】なし。（マンガは随時指定します。）

【評価方法】授業への参加度 50%、アンケート等提出物 50%

日本語 2 特別演習 B（ビジネス日本語）

福島恵美子（ふくしま えみこ） 木・3 N313

【目標】ビジネス場面での電話対応や連絡・報告などができるようになる。

【内容】面接や電話対応など、ビジネス場面で見られる会話について学習し、実践につながるような会話練習を行うことで、ビジネス・コミュニケーション能力を身につける。また、ビジネス場面で重要になる敬語についても学習する。

【テキスト】プリント配布

【評価方法】出席率 20%、参加態度 20%、会話・発表 40%、レポート 20%

レベル 3

日本語3総合 B

伊能裕晃（いのう ひろあき） 火3 S207

【目標】初級後半から中級の文法や語彙を覚えて、それを使えるようになること。

【内容】日本語の初級後半から中級の文法や語彙を勉強して、使えるようになるように、いろいろな練習をします。文法や語彙の宿題が出る場合があります。

【テキスト】『みんなの日本語中級Ⅰ 本冊』スリーエーネットワーク

【評価方法】出席、授業への参加度40%、宿題20%、テスト40%

日本語3応用 B

伊能裕晃（いのうひろあき） 火・4 S207

【目標】初級後半から中級の文法や語彙を使って、具体的なことを作文に書いたり、説明できたりするようになること、日常的で会話ができるようになること。

【内容】読む、聞く、話す、書くなどいろいろな練習をします。文章を読んでくる宿題や作文を書く宿題などがあります。

【テキスト】『みんなの日本語中級Ⅰ 本冊』スリーエーネットワーク

【評価方法】出席、授業への参加度40%、宿題20%、テスト40%

日本語3作文 B

荒巻朋子（あらまき ともこ） 火・2 S207

【目標】具体的で、ある程度まとまりのある文章が書けるようになる。

【内容】最初に原稿用紙の書き方など基本的なことを学ぶ。そしてテキストを通して作文に必要な文法や表現を学びながら、書き言葉を使って自分の意見や主張を表現できるようにする。学期中に何回か作文を書き提出する。またお互いの作文をグループで読み合い評価しあう。

【テキスト】プリント配布

【評価方法】出席、授業への参加度、提出した作文などを総合評価する。

日本語3講読 B

桂千佳子（かつら ちかこ） 月・4 C103

【目標】日常的で長くない文章が読めるようになる。

【内容】広告や雑誌、インターネットなどの文を読むことに慣れる。

【テキスト】配布プリント

【評価方法】2回のテスト平均点50%、課題点20% 出席点30%

日本語3会話 B

福島恵美子（ふくしま えみこ） 木・4 N205

【目標】具体的なことが説明できるようになる。日常的で具体的な談話が理解できるようになる。

【内容】「自分の気持ちや考えを話せない」という学習者のために、学んだ日本語で、自分の気持ちや考えを表現する練習をする。学期後半は、学習した表現を使用して、グループでミニドラマを作成し、発表する。

【テキスト】プリント配布

【評価方法】出席率30%、参加態度・宿題30%、会話20%、発表20%

日本語3漢字 B

横山和子（よこやま かずこ） 月・3 C203

【目標】基本漢字400～500を学ぶ。

【内容】クラスでは練習を中心とします。予習してきてください。特にユニット1は必ず予習してきてください。毎回、漢字クイズをします。毎週、宿題があります。

【テキスト】『Basic Kanji Book Vol.2』（後半）凡人社

【評価方法】クイズ40%、宿題20% 定期試験40%

日本語3聴解 B

小池恵己子（こいけ えみこ） 木・3 N205

【目標】日常的で具体的な談話が理解できるようになる。

【内容】・日常生活のいろいろな場面の会話を聞いて、内容、話のながれがわかるように聞きとりの練習をします。
・あるトピックについての説明を聞いて、ポイントをつかんで内容を理解します。

・話しことばの特徴や発音のちがいについても聞きとりの練習をします。・スクリプトを見ながら、なめらかに読めるように練習します。

【テキスト】プリントをくばります。

【評価方法】テスト 40%、クイズ 20%、授業への参加度・出席 30%、宿題 10%

レベル4

【テキスト】

「総合」 『みんなの日本語 初級Ⅱ 本冊』

「応用」 『みんなの日本語 初級Ⅱ 初級で読めるトピック 25』、『みんなの日本語初級Ⅱ 聴解タスク 25』

「漢字」 『基本漢字 500 Vol. 2』

レベル5

【テキスト】

「総合」 『日本語初級 大地 1, 2』

「文字」 『一人で学べる ひらがな かたかな』『Basic Kanji Book, Vol.1』

「会話」

「聴解」

「作文」

資料2 日本理解科目一覧

1. 日本の文化と社会（学部開設科目）

■春学期

日本の文化と社会 A

戸田 孝子（とだ たかこ） 木・2 N205

【目標】二つの狙いがある。①日本の文化や社会についての発見を、より自然な日本語表現で作文し、発表する。共通に関心のあるテーマで、日本の事情と母国の事情との比較考察を行い、ディスカッションを行う。②日本のビジネスにおいて用いられる敬語表現について、様々な場面を想定し、英語・中国語から日本語へ翻訳を行う。より美しい日本語表現を学び、ロールプレイを行う。

【内容】狙いの①については、自分の体験や学習から得られた「日本の文化や社会についての発見」を、ノートに記す。より自然な日本語表現について、じっくり考える。短い発表を出席者全員が行う。発表の中からクラス全体で取り上げたいテーマを決める。そのテーマについて、それぞれの母国の事情について情報提供する。多角的視点から、テーマについて日本と諸外国を比較検討し、議論する。②については、教師が、あるビジネス場面で使われる表現の資料を英語と中国語で配布するので、それにふさわしい日本語訳をグループで考え、黒板に書き出し、クラス全体で検討する。ビジネス場面での、より美しい日本語表現を学び、ロールプレイによって身につける。

【テキスト】特定の教科書を購入する必要はない。

【評価方法】出席、積極的な演習への参加。学期末発表。

日本の文化と社会 C

佐藤 正光（さとう まさみつ） 木・1 N407

【目標】日本の文化や社会についての疑問や理解しがたい点を、受講生自身の問題意識を出発点として、受講生全員で考察していく。それにより外国人の視点と日本人の考え方とから、日本の文化や社会を相対化しながら理解する。

【内容】受講生が自分の視点から日本の文化や社会についてテーマを決め、自分で調べて発表してもらい、それに基づいて全員で討論して理解を深めてゆく。発表では、自分で作成したレジュメとパワーポイントを用意してもらう。レジュメについては、事前に私が添削を行い、日本語の文章力も向上するように心がける。パワーポイントでは、映像資料も利用して発表内容を要領よく日本語で紹介できるように工夫すること。たとえば、「桜と日本人」、「日本人の好きなスポーツ」、「日本のアニメの魅力」、「日本のハイブリッド車」などテーマは限定しない。発表時間は10分、討論30分で一回の授業で2人が発表する。

【テキスト】各自の発表レジュメを用いる。レジュメは事前に発表者が人数分を用意する。【評価方法】受講生の発表内容と、討論での発言などを総合して評価する。出席を重視し、評価にも反映させる。

日本の文化と社会 E

二宮 修治（にのみや しゅうじ） 月・1 N106

【目標】文化財保存科学の視点から、文化財保護法に定められた文化財の中から有形文化財（建造物、美術工芸品など）、記念物、文化的景観などを中心に持ち上げ、日本の文化遺産の保存と活用に関する基礎的な調査・研究について理解を深める。さらに、文化財に及ぼす環境の影響評価を通して、日本の自然環境・社会環境の特徴を学ぶ。これらの知識をもとに、日本の文化財保護の体系へと発展させ、日本の文化と社会について考察する視点を養う。

【内容】文化財保存科学の目的は、文化財の構造と材質の究明、文化財のもつ内的要因とそれらを取り巻く環境（外的要因）によって生じる変化（劣化）の現象を解明し、文化財の保存と修復に役立たせることである。その内容としては文化財計測学、文化財材料学、文化財環境学、文化財保存修復技術との関連、という4本の柱である。日本を代表する文化遺産を持ち上げ、有形文化財の構造と材質の解明、内的・外的要因との相互作用による変化について具体的な事例をもとに考察する。

実験・実習を中心に理解を深めていく。また、関連する研究施設、博物館・美術館等の見学も予定している（希望者のみ）。

【テキスト】授業内容に応じてプリントを配布する。

【評価方法】平常点評価（授業中に5回実施する見極めテスト）50%。学期末テスト 50%。見極めテストは、授業中に取り上げるテーマごとに5回行う。毎回10点満点で成績に算入する。学期末テストは、授業で取り上げ

た5テーマのうち最も興味・関心をもった内容に関して、より総合的に文献等を調べ、自ら考察したものを1,600字程度にまとめる(50%)。見極めテストからの発展性が高く、総合的に考察されたものを高く評価する。

日本の文化と社会 G

遠藤 徹 (えんどう とおる) 月・1 音フォノテ

【目標】音楽文化を通して日本の文化と社会の理解を深める。

【内容】カラオケから伝統音楽に至る多様な日本の音楽文化を紹介し、それらを分析することを通じて、日本の文化と社会の特質を考える。

【テキスト】なし

【評価方法】レポート。

■秋学期

日本の文化と社会 B

神埜 正子 (かみや まさこ) 、石川 尚子 (いしかわ なおこ) 月・1 N202

【目標】本科目は、諸外国の影響を受けながら、長い年月をかけて日本人が生み出し、育んできた、衣生活・食生活について、階層、時代、地域などを切り口に、文化の視点から捉えようとするものである。衣生活や食生活に生かされたこうした知恵や文化がいかに継承されているかなどを学んで、現在の日本の文化と社会を再認識するきっかけとし、生活文化の視点から日本への理解を深めてほしい。

【内容】衣生活については、古代から現代に至る変化をとらえ、それぞれの時代の文化の成立と現在まで受け継がれている伝統行事の関連で展開する。食生活については、日本の食文化を社会の変化と共にとらえ、さらに今日の食生活の問題点に触れつつ、食生活・食文化の発展とは何かについて考える。

【テキスト】特になし。

【評価方法】平常点評価(授業への参加状況)50%。レポートおよびペーパーテスト50%(各講師の持ち点25%ずつ)。(1)1~7週(神埜)については毎回のまとめのミニレポートおよび最終日(7回目)のペーパーテスト。(2)8~15週(石川)については毎回のミニレポートおよび最終日(15回目)のペーパーテスト。このテストには、配付資料の持ち込みを可とする。

日本の文化と社会 D

古田 悦造 (ふるた えつぞう) 木・1 N407

【目標】日本における地域差に関して、地名・言語・食文化等を事例に4~5回講述する。また、野外実習の現地観察【12月21日(金)~23日(日)】によって、その相異を体感する。

【内容】日本を理解する上で重要である各地域の位置関係や社会・文化の地域差に関して習得する。また、現地観察によりその知識の確認と再認識を図る。

【テキスト】なし。

【評価方法】出席点20点、野外巡検参加30点、野外巡検レポート50点。

日本の文化と社会 F

日高 慎 (ひだか まこと) 木・1 N107

【目標】本講義では考古学をもとにして旧石器時代から近代・現代までの日本歴史・文化について通観する。考古学は発掘調査によって出土した遺構・遺物をもとに歴史を復元する学問である。歴史はかかれたもの、すなわち文献史料を用いて説明を行うことが多いものの、考古学の成果を無視しては日本歴史は語れない。本講義を通じて考古学の特徴を理解してほしい。

【内容】考古学は発掘調査の成果から歴史を復元する学問である。歴史は書かれたもの(文献史料)で説明されることが多いが、かかれたものはきわめて限定的であるとともに、支配者側の論理によって書き留められることが多い。つまり文献史料だけで歴史を語ることは、一方的な歴史解釈になってしまいがちである。それに対して考古資料は人々の生活そのものが残されることが多い。考古学の成果を通じて日本歴史・文化を考えたい。

【テキスト】なし

【参考文献】図解・日本の人類遺跡(東京大学出版会)、図解・日本の中世遺跡(東京大学出版会)

【成績評価】平常点40%、最終テスト60%。平常点は出席及び小レポートによって採点する。最終テストは授業で取り上げたテーマに関して出題し、解答をまとめる。

日本の文化と社会 H

太田 朋宏 (おおた ともひろ) 木・1 N106

【目標】伝統的な物づくりを通じて日本の文化と社会を考える。

【内容】主に工芸などの物作りに関する映像資料を通じて日本の伝統や文化について考えます。当方の専門である木工と漆芸に関わるものを主に陶磁器、染織、民芸運動などについて12～13回にわたって見ていきます。明治以降現代までの話題が多いと思いますが歴史上の話題もいくつか入れようと思います。最後に関連施設として伝統的工芸品センターの見学を予定しています。【テキスト】なし【評価方法】毎週ごとに簡単なレポートを課します。また最後にまとめとして伝統的工芸品センターの見学とそのレポートを予定しています。それらと出席を合わせて採点します。

2. 日本研究科目

■春学期

日本研究 A (社会)

高崎 恵 (たかさき めぐみ) 水・1 S207

【目標】「伝統」という言葉は日常的場面では、静態的・一枚岩的に語られることが多いですが、「創られた伝統」「オリエンタリズム」論等以降、その動態性・戦略性が指摘されています。本授業では、現代日本で「伝統」とされるものをとりあげ、単一的・同質的な日本というイメージがどのように形成され定着してきたのか、現実にはどのような多様性があるのかを検討します。

【内容】前半では、年中行事、階層、マイノリティー、女性などの問題を取りあげて、現在「伝統」とされているものが形成され定着してきた経緯を示し、現在その「伝統」はどのような形で私たちの生活に影響を及ぼしているのかを検討します。後半では、日本の伝統的仏教(天台・真言、鎌倉仏教諸派等)を取りあげ、伝統的仏教が現代社会で直面している諸問題と仏教側の改革の試みを検討し、現代日本の社会における宗教のあり方について皆さんとともに考えてみたいと思います。各授業の後半に意見交換等の機会を設ける予定です。積極的な参加を期待しています。

【テキスト】特に用いません。【評価方法】平常点、レポートを総合的に評価する予定です。

日本研究演習 B (人文)

有澤 知乃 (ありさわ の) 水・2 S204

【目標】各地に伝わる民俗芸能の歴史や変遷を学び、人と芸能の関係について考えます。

【内容】日本の芸能というと、能や歌舞伎が有名ですが、日本全国には他にも色々な芸能が伝承されています。この授業では、日本各地で行われている、演劇、人形芝居、歌謡、舞踊、大道芸などの民俗芸能を、映像資料を見ながら学びます。かつての社会では、どのような人々が何の目的で芸能に携わってきたのでしょうか？そして、今日の近代社会で民俗芸能を継承することにどのような意義があるのでしょうか？受講生の皆さんにも調査を行ってもらい、芸能を通して、各地の風俗、信仰、家族や共同体のあり方など、日本の様々な姿について一緒に考えたいと思います。

【テキスト】とくに定めません。【評価方法】平常点 15%、発表 25%、レポート 60%

日本研究 C (教育)

遠座 知恵 (えんざ ちえ) 火・2 S206

【目標】歴史的な視点から日本の教育について学び、その特徴に対する理解を深めていく。自国の教育ともぜひ比較してみてください。

【内容】古代から現代までの「学校」に注目しながら、日本の教育の特徴について学んでいく。日本は古代から海外の影響を受けて発展してきた国であり、教育についてもその例外ではない。この授業では、それぞれの時代に、海外の影響を受けながら、日本でどのような教育が行われてきたのかを紹介していく。プリントやビデオなど、できるだけわかりやすい資料を使いながら授業を進めていく。

【テキスト】とくに用いない。読みやすい参考文献を紹介したいと考えている。

【評価方法】出席・授業内小レポート(40%)と学期末試験(60%)で評価を行う。

日本研究演習 D (環境教育)

松川 誠一 (まつかわ せいいち) 火・4 S206

【目標】第二次世界大戦以降の日本経済の構造とその変化について概説する。

【内容】第二次世界大戦以降の日本経済の構造とその変化について概説する。1980年代以降、日本社会は急速な高齢化が起り、高齢人口が占める割合が世界で最も高い国になっている。こうした人口の少子高齢化が経済構造に対して与える影響について特に注目する。受講者は、戦後日本経済に関するトピックを1つ選んで個人研究を行な

い、学期末にレポートを作成・提出する。また、その内容をクラス内で口頭発表してもらう。【テキスト】特に定めない。資料を授業時に配付する予定である。

【成績評価】学期末レポート 80%、口頭発表 20%

■秋学期

日本研究演習A（社会）

加藤 拓（かとう たく） 金・2 C103

【目標】日本で習慣化した消費行動、日本で最近ヒットした商品や流行現象などをとりあげ、その社会的背景や企業行動を理解する。

【内容】講義のはじめに日本で定番化した商品や、いま流行している商品、消費現象に関する話題を紹介し、その理由を社会的背景や関連する企業の行動を中心に説明します。日本人にものを買ってもらう方法を少し理解できるかもしれません。受講生の皆さんには、自国の似ている例を紹介していただき、日本の場合との共通点や相違点を発表していただく予定です。楽しいクラスにしましょう。

【テキスト】とくに定めません。【評価方法】平常点50%、発表・レポート50%

日本研究B（人文）

有澤 知乃（ありさわ のの） 水・2 C103

【目標】日本の祭りについて、宗教、社会、文化など様々な観点から考察します。

【内容】日本全国の祭りについて、映像資料を見ながら学びます。京都の祇園祭では、どうして華やかな山鉾を曳いて人々が街を練り歩くのでしょうか？ 盆踊りの歌や踊りに込められている意味は？ 札幌雪まつりが国際的な祭りに発展した背景は？ 各地の人々の風俗や信仰が、祭りの中にどのような形で表れているかを考え、更に現代社会における祭りの変遷や新しい取り組みについても議論します。課題として、各自で祭りに行ってフィールドワークを行い、観察したこと、考えたことについて発表をしてもらいます。

【テキスト】とくに定めません。

【評価方法】平常点15%、発表35%、レポート50%

日本研究演習C（比較研究）

戸田 孝子（とだ たかこ） 火・5 W302 フィールドワークを含み15時間

【目標】この授業は、比較文化の視点から、主に「学校、教育、教師、子供、若者」をテーマに、日本人学生との討論、日本の小学生とのコミュニケーションを通し、理解を深めることをねらいとしている。

【備考】火曜日5時限への参加は、10 授業時間、毎回参加しなくてよい。学校訪問日 [2013 年 1 月 25 日 (金)] 予定は、国分寺駅前 8 時 30 分集合（小学校まで約 2 時間）、交通費（往復、約 1500 円、給食費 約 300 円は、各自用意する。メールで受講登録し、訪問時の緊急連絡などを受けられるようにしておく。

【内容】① 10 月 23 日、授業の概要についてオリエンテーションを受け、メールで受講登録をする。②日本人学生に伝える母国の事情について、「学校、教育、教師、子供、若者」の中から一つテーマを選び、パワーポイントを用いた短いプレゼンテーションを準備する。③少人数の日本人学生のクラスで、[10 月～12 月、いずれか 1 回]発表し、互いに興味のある具体的問題について質問し合う。④ある日本の小学校へ郵送する自己紹介の絵手紙を準備する。(11 月 27 日締切。12 月に訪問小学校に掲示される) ⑤発表をした日本人学生のクラスで、お楽しみ会を企画し、交流を深める。(12 月末) ⑥ (1 月中旬) 手紙を送った小学校の子供からの返信を受け取る。その子供のクラスを、1 月 25 日 (金：1～4 時限は他の授業を休む) 訪問して、授業を受けたり、交流活動をしたり、給食を食べたり、遊んだりして、子供達と一緒に過ごす。⑦ (2 月) 日本人の学生のクラスで、日本の小学生との交流体験から得たさまざまな発見についてレポートする。日本人学生の諸外国でのさまざまなフィールド・スタディーでの発見の発表を聞くこともできる。

【成績評価】①パワーポイントを用いた、母国の事情についてのプレゼンテーション。②クラスメイトの発表の傾聴、話し合い参加。③子供達への絵手紙の作成と提出。

④小学校訪問参加 ⑤学校訪問レポート（スピーチでも可）以上により成績をつける。

日本研究D（芸術）

石井 健（いしい たけし） 金・4 書道演習室

【目標】この授業科目では、日本の文字文化を中心に考察していきます。本年度は、漢字・ひらがな・カタカナの書き方、特に「正しく整った文字」とは何か？ということについて、実際の筆記具を使い、書きながら学んでいきます。

【内容】日本語を学ぶテキストには様々な種類のものがありますが、文字の書き方、特に「正しく整った文字」の

書き方を勉強できるテキストは少ないようです。そこで、本年度は、日本の小学生が文字を学ぶ「書写」の教科書を使って、「正しく整った文字」の考え方・書き方・教え方について、日本の文字文化、芸術として書道とのかかわりも考えながら勉強していきます。テキスト、鉛筆などの筆記用具、毛筆の道具等は各自で用意してもらいます。

【テキスト】『新しい書写一～六』（東京書籍）。その他、必要に応じ、資料を配布します。

【評価方法】平常点50% 提出物30% レポート20%

資料3 短期留学プログラム (ISEP) 科目一覧

* CA 共通開設科目

2012 年春学期

	科目名	授業担当教員
1	ISEP Seminar II	有澤 知乃(留学生センター)
* 2	Cross-Cultural Ideas	戸田 孝子(国際教育教室)
* 3	School in Japan	浅沼 茂(国際教育教室)
4	Introduction to Psychophysiology	池田 一成(学校心理教室)
* 5	Cultural Social Psychology of the Japanese	杉森 伸吉(学校心理教室)
6	Culture Clashes	Joshua P. Dale (英語科教室)
7	Philosophical Thinkers in Japan	栗原 裕次(社会科教室)
8	Natural Science in Japan	藤本 光一郎・中野幸夫(自然環境科学教室)
9	Modern and Contemporary Culture of Japan	有澤 知乃(留学生センター)
10	Traditional Performing Arts of Japan	有澤 知乃(留学生センター)
* 11	Introduction to Japanese Music II: Playing Shakuhachi	筒石 賢昭(音楽家教室)
12	Theatre Workshop	高尾 隆(表現コミュニケーション教室)
13	Recreation and Sports in Japan IV: Cycling	渡辺 雅之(保健体育科教室)
14	Japanese Budo: Judo	射手矢 岬(生涯スポーツ教室)
15	Recreation and Sports in Japan III Aquatic Sports (Swimming)	岩本 良裕(保健体育科教室)
16	Geography of Japan I: Blue Tourism in Izu Islands (Kouzu shima) of Tokyo Prefecture	古田 悦造(日本研究教室)

2012 年秋学期

	科目名	授業担当教員
1	ISEP Seminar I	有澤 知乃(留学生センター)
* 2	Education in Japan	渋谷 英章(国際教育教室)
* 3	Cross-Cultural Teaching Practice	戸田 孝子(国際教育教室)
4	Counselling in Japan	佐野 秀樹(カウンセリング教室)
5	“Japan Cool” Abroad: Analysis and Fandom	Joshua P. Dale (英語科教室)
6	Cultural History of Japan	有澤 知乃(留学生センター)
7	Study of Japanese Print-Making	清野 泰行(美術科教室)
8	Introduction to Japanese Music I: Playing Koto	有澤 知乃(留学生センター)
9	Recreation and Sports in Japan I: Table Tennis	渡辺 雅之(保健体育科教室)
10	Walking Convention: The Memory of History and War	渡辺 雅之(保健体育科教室)
11	Recreation and Sports in Japan II: Skiing	岩本 良裕(保健体育科教室)
12	Geography of Japan II: Geography of Seaside and Downtown Area in Tokyo Prefecture	古田 悦造(日本研究教室)
13	Japanese Business Enterprise	原田 和雄(自然環境科学教室)

2012 年春季学期

Title	ISEP Seminar II		
Instructor	ARISAWA Shino	unit	2
Overview			
<p>ISEP Seminar is available and COMPULSORY only for ISEP students. Students will take leading roles in weekly seminars where they will discuss and give presentations on their chosen topics about Japan, including social and cultural issues, arts, literature, politics, education and many other topics concerning the student's own interest. ISEP Seminar aims to develop critical skills in thinking, discussing, and presenting ideas in oral and written format. A couple of excursions and lectures by guest speakers are also planned for the students to broaden their perspectives on Japanese society and culture.</p>			

Title	Cross-Cultural Ideas		
Instructor	TODA Takako	unit	2
Overview			
<p>This subject is an exchange program for overseas students and Japanese students. Each student will prepare his own presentation: a) an introductory speech of himself and his hometown or hobbies (April & May), b) topics for class discussion based on his observation or his readings on youth culture, society, our future, or something which has general interest in the class. (June & July.) The key sentences of the presentation has to be translated both in English and Japanese, with which we will have time for discuss translatability at the end of each session. Students have to submit reports focused on cross-cultural findings by attending each session and develop them to a term report focused on a specific topic in cross-cultural understanding.</p>			

Title	School in Japan		
Instructor	ASANUMA Shigeru	unit	2
Overview			
<p>The purpose of this class is to understand the curriculum and instruction in Japanese schools. There are many reports on Japanese education through eyes of mass media. But there are not so many researches on educational content and way of teaching of Japanese schools. We will focus on the classroom teaching of Japanese schools and try to have in-depth understanding what the schools do in Japan. We will encourage to observe the Japanese schools in terms of their own eyes rather than the non-evidential fraud journalistic eyes. For this purpose, it is imperative to seek the empirical evidence through students' own observations.</p>			

Title	Introduction to Psychophysiology		
Instructor	IKEDA Kazunari	unit	2
Overview			
<p>In psychophysiology the relation of mind with body is studied via measuring physiological responses under some psychological situation. If persons feel goodwill toward somebody, for instance, their pupils in eyes would be dilated in addition to slowing of their heart rates. This course would introduce participants to basic and applied knowledge in psychophysiology.</p>			

Title	Cultural Social Psychology of the Japanese		
Instructor	SUGIMORI Shinkichi	unit	2
Overview			

In this class, we will discuss about the foreign students' questions on Japanese customs and behavior. Through the discussion and lectures, the students will deepen the understanding of the Japanese cultural social psychology.

Title	Culture Clashes		
Instructor	Joshua Dale	unit	2
Overview			
This class will investigate how cultural productions travel between cultures. How is global culture produced, and who determines its content?			

Title	Philosophical Thinkers in Japan		
Instructor	KURIHARA Yuji	unit	2
Overview			
In this course we read some philosophical texts written by seven Japanese thinkers. Some of them (Nishida, Omori and Kimura) are very “philosophical,” following the tradition of Western philosophy. Others (Fukuzawa and Mori) are easier to read even for those who are not familiar with philosophy, although they were influenced very much by the West, too. Takeuchi discusses the nature of modernity, considering the relation between Japan and Asia. Finally, Karatani, a leader of critical theory in Japan today, aims to clarify Japanese thoughts in relation to Japanese language. The choice of these thinkers is based on the instructor’s rather arbitrary decision, but we will find common features shared by them all in the end of the course. Students are required to read a text in advance and to make a presentation in turn in the class.			

Title	Natural Science in Japan		
Instructor	FUJIMOTO Koichiro & NAKANO Yukio	unit	2
Overview			
We will give students some basic knowledge of natural sciences, especially in geological and environment science areas, through lectures and field activities. Some basic skills of observing living things and natural phenomena will also be given. After completing the subject, students are expected to have some basic knowledge to understand Japanese nature as well as enough skills to carry out self-study on their natural environment.			

Title	Modern and Contemporary Culture of Japan		
Instructor	ARISAWA Shino	unit	2
Overview			
This course will explore Japan’s cultural transformations from the late 19th century to present, focusing on key issues in Meiji restoration, Taisho culture, nationalism, war, and cultural reconstruction in the post-war period. Topics will cover art, literature, media, popular entertainment, and other related matters. Lectures will explore cultural transformations both chronologically and thematically so that students will grasp a broad history as well as gain an in-depth understanding of specific issues. Students will develop their critical skills in thinking, discussing, and presenting ideas in both oral and in written format.			

Title	Traditional Performing Arts of Japan		
Instructor	ARISAWA Shino	unit	2
Overview			

This course will look at various forms of Japanese theatre, music, and dance traditions ranging from religious ceremonial performance to secular entertainment. Genres to be focused include kabuki, noh, ningyô-jôruri puppet theatre, and instrumental genres such as koto, shamisen, and shakuhachi, as well as vocal genres. The focus will be on historical and social background as well as features in performance discussed with audio and visual materials.

Title	Introduction to Japanese Music II: Enjoy Playing Shakuhachi		
Instructor	TAKESHI Kensho	unit	2
Overview			
<p>The purpose of this subject is to examine and demonstrate the shakuhachi in relation to Japanese traditional music and Japanese culture. Shakuhachi has a long history, and is also famous abroad as a representative Japanese traditional instrument. Students study how to make sound, then will be to play a simple piece. Also they study Japanese cultural background through to shakuhachi. *We are ready to borrow shakuhachi during the class period.</p>			

Title	Theatre Workshop		
Instructor	TAKAO Takshi	unit	2
Overview			
<p>The aim of this course is to experience a theatre workshop. The class is constructed with games, activities and group works based on a theatre theory called "impro"(improvisational theatre). Key words are playfulness, spontaneity, imagination, creativity, storytelling, courage, facilitation, communication and collaborative innovation. We may make a group theatre performance. Some Japanese students will be invited to the class. Students will experience cross cultural communication including both verbal and non-verbal. Theatrical experience is not needed. Active participation will be welcomed.</p>			

Title	Recreation and Sports in Japan : Cycling		
Instructor	WATAJABE Masayuki	unit	2
Overview			
<p>Cycle sports are the most favorite and popular sports in Japan. In this class you will be able to ride not only racing cycle but also tandem cycle. Tandem cycle is for two persons use. Both riders cooperate in riding. Riding cycle makes you feel a wind.</p>			

Title	Japanese Budo: Judo		
Instructor	ITEYA Misaki	unit	1
Overview			
<p>This lesson is designed for beginners. You will learn Japanese traditional behavior through practicing Judo: how to put on Kimono, walk on Tatami, make Japanese bow, etc. You will also come to understand some fundamental techniques of Judo. Simultaneously, we will consider the educational implication of Judo.</p>			

Title	Recreation and Sports in Japan III: Aquatic Sports (Swimming)		
Instructor	IWAMOTO Yoshihiro	unit	1
Overview			
Beginners are welcome.			
Schedule			

This is an intensive subject. Two-day swimming in the swimming pool of our university in late July, and three-day swimming in the sea at Chiba prefecture [Shiraku-so at Ubara, Katsuura city] in early August. An orientation will be held in April. Please see the bulletin board in April for details. This class is equivalent to a 15 sessions of 90 minutes.

Title	Geography of Japan I: Blue Tourism in IZu Islands (Kouzu shima) of Tokyo Prefecture		
Instructor	FURUTA Etsuzo	unit	1
Overview			
Orientation , room S404 Half day trip at Shinjuku district Three days Field Trip in IZu Islands			

2012 年秋学期

ISEP Seminar I			
Instructor	ARISAWA Shino		
Overview			
<p>ISEP Seminar is available and COMPULSORY only for ISEP students. Students will take leading roles in weekly seminars where they will discuss and give presentations on their chosen topics about Japan, including social and cultural issues, arts, literature, politics, education and many other topics concerning the student's own interest. ISEP Seminar aims to develop critical skills in thinking, discussing, and presenting ideas in oral and written format. Excursions and lectures by guest speakers are also planned for the students to broaden their perspectives on Japanese society and culture.</p>			

Education in Japan			
Instructor	SHIBUYA Hideaki	unit	2
Overview			
<p>This subject title provides students with basic knowledge and information on Japanese education, and we would consider and discuss present situation and future perspective of Japanese education, comparing with that of students' home countries. (The Present and the Future of Education in Japan: from a Comparative Viewpoint)</p> <p>Topics of Education in Japan</p> <p>1) Outline of educational system, 2) School enrollment and attendance, 3) Examination and evaluation, 4) Private tutoring, 5) School discipline, 6) Lifelong learning, 7) Education and employment, 8) ICT and education, 9) Education and community</p> <p>Desirable participating students</p> <p>a) No special knowledge of pedagogy is required. b) Sufficient knowledge, information, and strong ideas about education in own country are necessary c) Positive attitudes for discussion are important</p>			

Cross-Cultural Teaching Practice			
Instructor	TODA Takako	unit	2
Overview			

This subject is an exchange programme for overseas as well as Japanese students. Students will exchange ideas on values and skills in teaching by the process of actual classroom teaching. After being divided into groups and understanding some aspects of teaching, each group will prepare a small teaching plan and try it in a class. The topics for plan will be based on Japanese primary and secondary school integrated program. While one group practices their lesson plan, others play the part of students. Students have to submit reports focused on cross-cultural findings by attending each practice and develop them to a term report focused on a topic in practical teaching.

Counseling in Japan			
Instructor	SANO Hideki	unit	2
Overview			
1. Learn basic knowledge of counseling. 2. Comparing Japanese and home cultures 3. Discussion on common psychological elements across cultures.			

“Japan Cool” Abroad: Analysis and Fandom			
Instructor	Joshua Paul DALE	unit	2
Overview			
Recently, much academic analysis has appeared concerning the popularity of Japanese cultural productions: such as manga, anime, and fashion, outside Japan. In this course, we will read some of this recent scholarship and compare it to what the fans themselves are saying and producing. Rather than studying manga or anime itself, this class will examine several key concepts used to analyze and express their popularity: including otaku, moe, kawaii, and cosplay. We will apply these concepts to study the fan cultures that have appeared in various countries around the world.			

Cultural History of Japan			
Instructor	ARISAWA Shino	unit	2
Overview			
The course looks at Japan’s cultural history from ancient times to the late 19 th century. Lectures will explore various aspects of Japanese culture both chronologically and thematically so that students will grasp a broad history as well as gain an in-depth understanding of specific issues. Students will develop their critical skills in thinking, discussing, and presenting ideas in both oral and in written format.			

Study of Japanese Print-Making			
Instructor	KIYONO Yasuyuki	unit	2
Overview			
Learn about the ways of expression of Japanese traditional woodblock print known as Ukiyo-e, which had a major influence on the Impressionists. Create prints using the basic techniques. Also visit the actual studios such as paper making studios and print studios of the traditional craft that have supported those techniques, and study the themes of “expression and materials” as well as “expression and tools.”			
Textbooks and Relevant Readings			
Handout will be provided as necessary			

Introduction to Japanese Music I: Playing Koto			
Instructor	ARISAWA Shino	unit	2
Overview			
<p>Through learning <i>koto</i> (13-string zither), students will understand aesthetics of Japanese music, including its modes, rhythms, timbre, and aspects in ensemble performance. The course also aims at exploring the koto by composing melodies and simple pieces, through which students will gain ideas about musical innovations. Due to the limit of the instruments' availability, maximum of 15 students may attend.</p>			

Recreation and Sports in Japan I: Table Tennis			
Instructor	WATANABE Masayuki	unit	1
Overview			
<p>The specific character of table tennis is that anyone can play it easily at any time. And also safety and moderately. If you will get better, you can play it at higher intensity. I hope you can enjoy table tennis and smash the ball splendidly through learning ARP theory, which is a theory of body movement for table tennis invented by the former world table tennis champion Ms. Noriko YAMANAKA. ARP means the Axis, the Rhythm, and the Posture.</p>			

Walking convention: The memory of history and war			
Instructor	WATANABE Masayuki	unit	1
Overview			
<p>In this Tama area there are many historic architecture and spots. Also Yasukuni-Jinja, Chidorigafuchi Cemetery and etc., which concern to the memory of the war, are there in this neighborhood. Then, I hope you go to these area or spots, watch them, and think something as you walk. The most unique point of this class is that we discuss while walking.</p>			

Title	Recreation and Sports in Japan II: Skiing		
Instructor	IWAMOTO Yoshihiro	unit	1
Schedule	<p>This is an intensive class of skiing and other winter sports. We take 3 nights and 4 days, February, 2013. An orientation will be held in October. See the bulletin board in Int'l Affairs Office.</p>		
Place	Akakura, Niigata Prefecture		
Overview			
<p>This is an intensive subject. Four-day Skiing in the Mountain at Myoukou Kogen in February. An orientation will be held in October. Please see the bulletin board in October for details. Beginners are welcome.</p>			

Japanese Business Enterprise			
Instructor	HARADA Kazuo	unit	1

Overview
The principle aim of this subject is to gain an understanding of modern Japanese business enterprises and Japanese culture through field trips to local science- and food-oriented companies and factories in the greater Tokyo area.

Geography of Japan II : Geography of Seaside and Downtown Area in Tokyo Prefecture			
Instructor	FURUTA Etsuzo	unit	1
Overview			
<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Half day Field Trip at Shinjuku district. 3. One day Field Trip at Central and Downtown Area in Tokyo. 4. One day Field Trip at Waterfront Area in Tokyo. 			

資料4 主な行事の写真



附属大泉小学校での交流（教員研修留学生）



東京朝鮮中高級学校訪問（ISEP 留学生）



特別演習（教員研修留学生）



淵江高校での交流（日本語日本文化研修留学生）



国際交流カフェ（カルタ大会）



国際交流合宿（山中湖）

参考資料 本学に在籍する留学生数（国際課の資料による）

身分別外国人留学生数一覧（平成24年5月1日現在）

留学生区分・種別			学費区分	留学生数							
				男女別内訳		学年別内訳					
				男	女	学年別計		男	女		
大学院レベル	大学院生	博士課程	国費	5	0	5	1年	0	0	0	
						2年	3	0	3		
						3年	2	0	2		
			外国政府派遣	国費	0	0	0	1年	0	0	0
						2年	0	0	0		
						3年	0	0	0		
			私費	国費	13	3	10	1年	3	0	3
						2年	1	0	1		
						3年	9	3	6		
		修士課程	国費	6	2	4	1年	1	0	1	
						2年	5	2	3		
			外国政府派遣	国費	0	0	0	1年	0	0	0
							2年	0	0	0	
			私費	国費	99	21	78	1年	37	7	30
							2年	62	14	48	
		研究生	研究留学生	国費	3	2	1				
			研究生	私費	41	12	29	23年度入学	20	8	12
						24年度入学	21	4	17		
	教員研修留学生		国費	13	4	9					
	日本語予備教育生		国費	6	4	2					
	特別聴講学生（交換留学生）		私費	7	2	5					
	科目等履修生		私費	3	0	3					
	小計			196	50	146					
学部レベル	学部生	国費		0	0	0	1年	0	0	0	
						2年	0	0	0		
						3年	0	0	0		
						4年	0	0	0		
			外国政府派遣	国費	0	0	0	1年	0	0	0
							2年	0	0	0	
							3年	0	0	0	
							4年	0	0	0	
			私費	国費	46	9	37	1年	12	3	9
							2年	12	4	8	
							3年	8	0	8	
							4年	14	2	12	
		日本語・日本文化研修留学生		国費	17	7	10				
		特別聴講学生	交換留学生（一般）	私費	54	18	36				
			交換留学生（ISEP）	私費	8	1	7				
		科目等履修生		私費	3	0	3				
		小計			128	35	93				
合計				324	85	239					
				国費	50	19	31				
				外国政府派遣	0	0	0				
				私費	274	66	208				